病院薬剤師への招待

薬学の専門性を最大限に生かそう！

一般社団法人
日本病院薬剤師会

病院薬剤師への招待 講演スライド

項目	頁
日本病院薬剤師会について	3～10
病院薬剤師のやりがい	11～19
活躍する病院薬剤師・導入	20～29
病院薬剤師の業務(中央業務)	30～39
病院薬剤師の業務(病棟業務)	40～64
病院薬剤師の業務(実践事例)	65～73
病院薬剤師の業務(チーム医療)	74～79
病院薬剤師の業務(その他)	80～93
専門薬剤師制度	94～106
病院数・薬剤師数	107～109
病院への就職について・結び	110～133

このスライドは学生向けの講演用に作成しました。ご自由にご利用いただけます。
特定の講義時間・学年を想定して作成したものではありませんので、講演時間や対象学年に応じてスライドの抜粋、変更、差替等をお願いします。

日本病院薬剤師会とは？

病院薬剤師の活躍を応援する職能団体です。

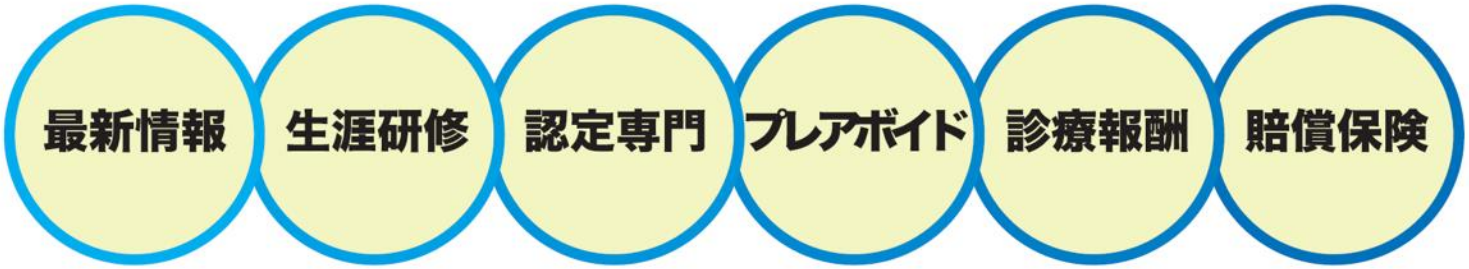
（正会員）

病院、診療所・介護保険施設に籍を有する薬剤師

（目的）

薬剤師の倫理及び学術水準を高める
質の高い薬物療法を確保する
国民の健康・福祉の増進に寄与する

本会には、全国の病院に勤務する薬剤師約56,000名のうち、約８割の薬剤師が入会しています。（令和4年11月17現在）



日本病院薬剤師会ホームページ

パンフレット・ガイドライン

- 病院薬剤師を紹介する各種パンフレット
- 日本病院薬剤師会作成の病院薬剤師業務に関するガイドライン
- 日本病院薬剤師会雑誌の目次等

専門薬剤師等の各種認定制度

- 専門薬剤師、認定薬剤師等の認定申請資格、申請単位等

病院薬剤師求人情報・施設紹介

- 掲載を希望する求人情報、会員施設紹介（会員施設の一部です）

薬学生の皆様はご自由にご覧いただけます

日本病院薬剤師会ホームページ

病院薬剤師業務に関するガイドライン・事例集

- 地域医療連携実例集
- 回復期の病棟に求められる病院薬剤師の業務事例集
- 多剤投薬の患者に対する病院薬剤師の対応事例集
- 医薬品情報業務の進め方２０１８
- 外来患者への薬剤師業務の進め方と具体的実践事例
- 根拠に基づいた周術期患者への薬学的管理ならびに手術室における薬剤師業務のチェックリスト
- 薬剤師の病棟業務の進め方
- プロトコールに基づく薬物治療管理（PBPM）の円滑な進め方と具体的実践事例

等々

薬学生の皆様はご自由にご覧いただけます

薬学生向け情報集（病院薬剤師になろう）

薬学生の皆様に役立つ情報を取りまとめております。

・病院薬剤師紹介動画

・薬剤師（職業情報提供サイト（日本版O-NET）職業紹介動画）

・日本病院薬剤師会作成パンフレット等

・病院等について

是非気になるページをご覧いただき、もっと薬剤師のことを知っていきましょう！！

日本病院薬剤師会ホームページ施設紹介

施設紹介

日本病院薬剤師会会員の皆さまが所属する、全国の施設をご紹介いたします。
また、求人情報へも各ブロックページからリンクしております。
ぜひご活用下さい。

随時、会員の皆様からの情報を募集しております。

「施設紹介」募集詳細はこちら

地区の求人情報にリンクしています

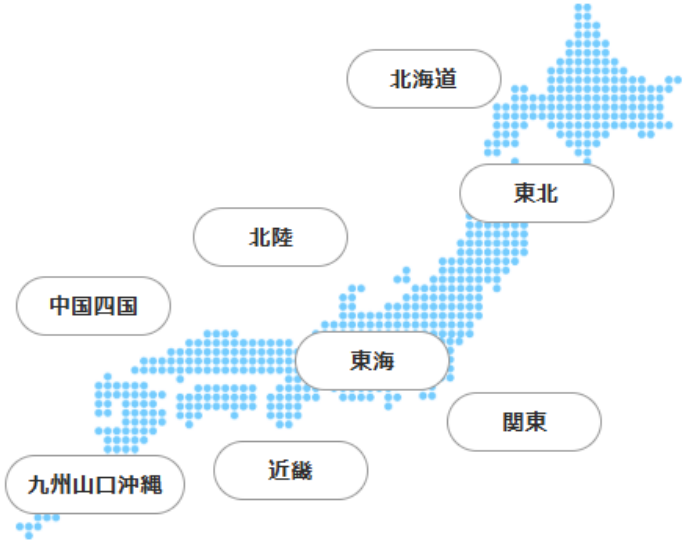
日本病院薬剤師会 求人・求職システム

お知らせ【求人情報掲載施設の皆様へ】

求人原稿項目一覧（求人要件）を追加しました

求人原稿を作成いただく際にご活用ください。

エリアで探す



詳細条件で探す

キーワード　キーワードを入力

勤務地　地域を選択する ＋

種別
- ☐ 一般病院
- ☐ 療養型病院
- ☐ 精神科病院
- ☐ ケアミックス等
- ☐ 診療所
- ☐ その他（グループ病院等）

病床数　---

募集形態
- ☐ 随時募集
- ☐ 期間限定募集
- ☐ 令和７年度募集
- ☐ 令和８年度募集

条件をもっと細かく設定　この条件でお仕事をさがす(405)

求人詳細検索｜日本病院薬剤師会 求人・求職システム

キーワード	キーワードを入力
勤務地	地域を選択する +
種別	☐ 一般病院　☐ 療養型病院　☐ 精神科病院 ☐ ケアミックス等　☐ 診療所　☐ その他（グループ病院等）
病床数	---
給与	給与体系：選択する　金額：選択する
募集形態	☐ 随時募集　☐ 期間限定募集　☐ 令和７年度募集 ☐ 令和８年度募集
雇用形態	☐ 正職員　☐ 臨時職員　☐ 非常勤職員 ☐ その他
メリット	選択する +
こだわり条件	選択する +

日本病院薬剤師会ホームページ施設紹介

三重大学医学部附属病院

三重大学病院薬剤部では、調剤、DI等の中央業務に加え、医療安全等の職種横断的なチーム医療にも広く参画し、理念として掲げる「社会貢献、人材育成、エビデンス構築」に取り組んでいます。
全国的にも早期にファーマシーレジデント制度を導入し、病院全体で研修を支援しています。2年間の研修であり、専門医による領域別講義も充実しています。さらに、国際学会や海外の病院見学のチャンスがあり、世界的な視野をもつ人材育成に繋がっています。また、当院は専門薬剤師の資格取得を推奨しており、多くの薬剤師が研鑽し専門資格を取得しています。基礎研究から臨床研究まで、先輩の指導を受けつつ学会発表や論文作成ができることも魅力です。
一方、近隣薬局とのコミュニティー研修会(レジメンカフェ)や薬薬連携に関する勉強会(医療薬学研究会)を開催し、地域医療の活性化にも尽力しています。レクリエーションとして、薬剤部旅行やマラソン大会などもあり、明るい職場です。

鳴門山上病院

鳴門山上病院は、高齢者の理想郷を目指して1977年に設立しました。鳴門市における地域医療の中核施設として日本医療機能評価機構の認定(LL5-4号)を受けています。
「わたしも受けたいケア、わたしも利用したい施設、わたしたちは、それを目指します」という普遍的な理念のもと、患者さんやご家族に寄り添い、地域に根ざした切れ目のない医療・介護・福祉を提供しています。
薬剤師は、すべての病棟で薬学的ケアを実践し、入院前から退院後を踏まえた連携のもと、医師、看護師、管理栄養士、リハビリスタッフ、医療福祉相談員等の多職種と共にチーム医療・チームケアを提供しています。
2018年3月には、新病院竣工を予定しています。

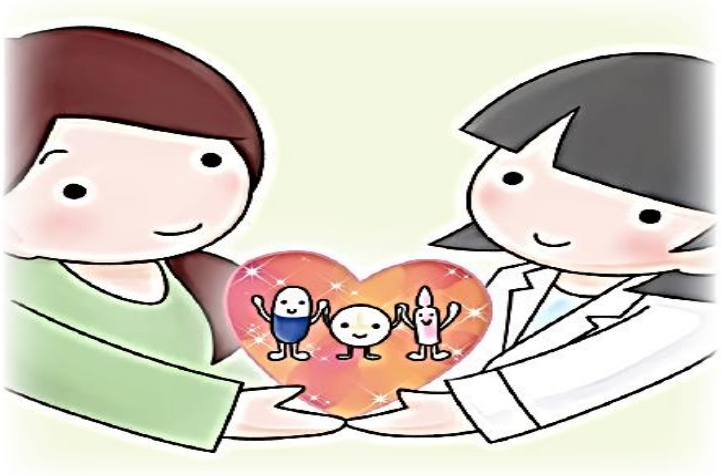
病床数：200床　診療科：10科　病棟：4看護単位
所在地：〒772-0053 徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦字高砂205番地29　TEL：088-687-1234　(代表)

掲載施設のホームページにアクセスできます

施設紹介から病院見学のススメ

施設紹介に掲載している施設は
薬学生の皆様に関心が特に高い施設です。

是非施設紹介をご覧いただき、
興味がある施設に病院見学に行きましょう！！
学年を問いません。質問大歓迎です。



病院薬剤師のやりがい

入院していた患者さんが元気になり、笑顔で退院していく姿を見ることができ、患者さんやご家族から感謝される。

病院薬剤師のやりがい

患者さんの状況を確認し、専門的な観点から服薬指導や処方提案を行うことで、患者さんにとって最良の医療を提供できる。

病院薬剤師のやりがい

医師や看護師をはじめ、院内の様々なスタッフと関わることができ、コミュニケーション能力を高めることができる。

病院薬剤師のやりがい

チーム医療の一員として、多くのスタッフと患者の薬物治療についてディスカッションし、患者の治療に直接関わることができる。

病院薬剤師のやりがい

カンファレンスや院内外の勉強会や研究会などで、多くのことを学ぶことができる機会があり、知識レベルを高めることができる。

病院薬剤師のやりがい

内用薬、外用薬だけでなく注射薬、院内製剤など様々な医薬品を取り扱うことができ、さらに最新の医療に関わることができる。

病院薬剤師のやりがい

日々、最新の治療が行われている臨床現場で働くことで、医薬品に関する知識だけではなく総合的な医療知識を深めることができる。

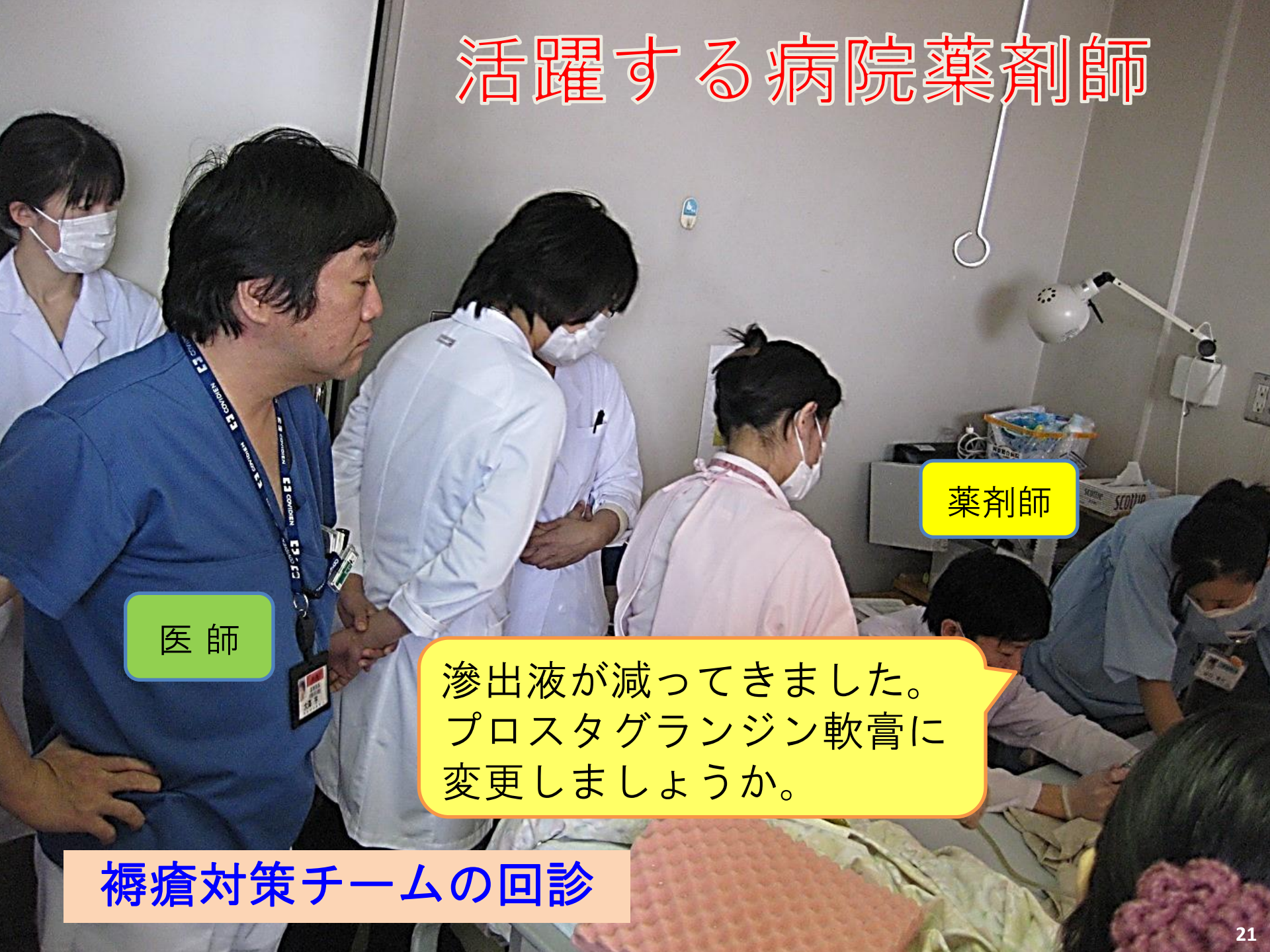
病院薬剤師のやりがい

臨床現場におけるクリニカルクエスチョンを研究対象として学会発表を行い、論文化することで新規のエビデンス構築に貢献できる。

活躍する病院薬剤師

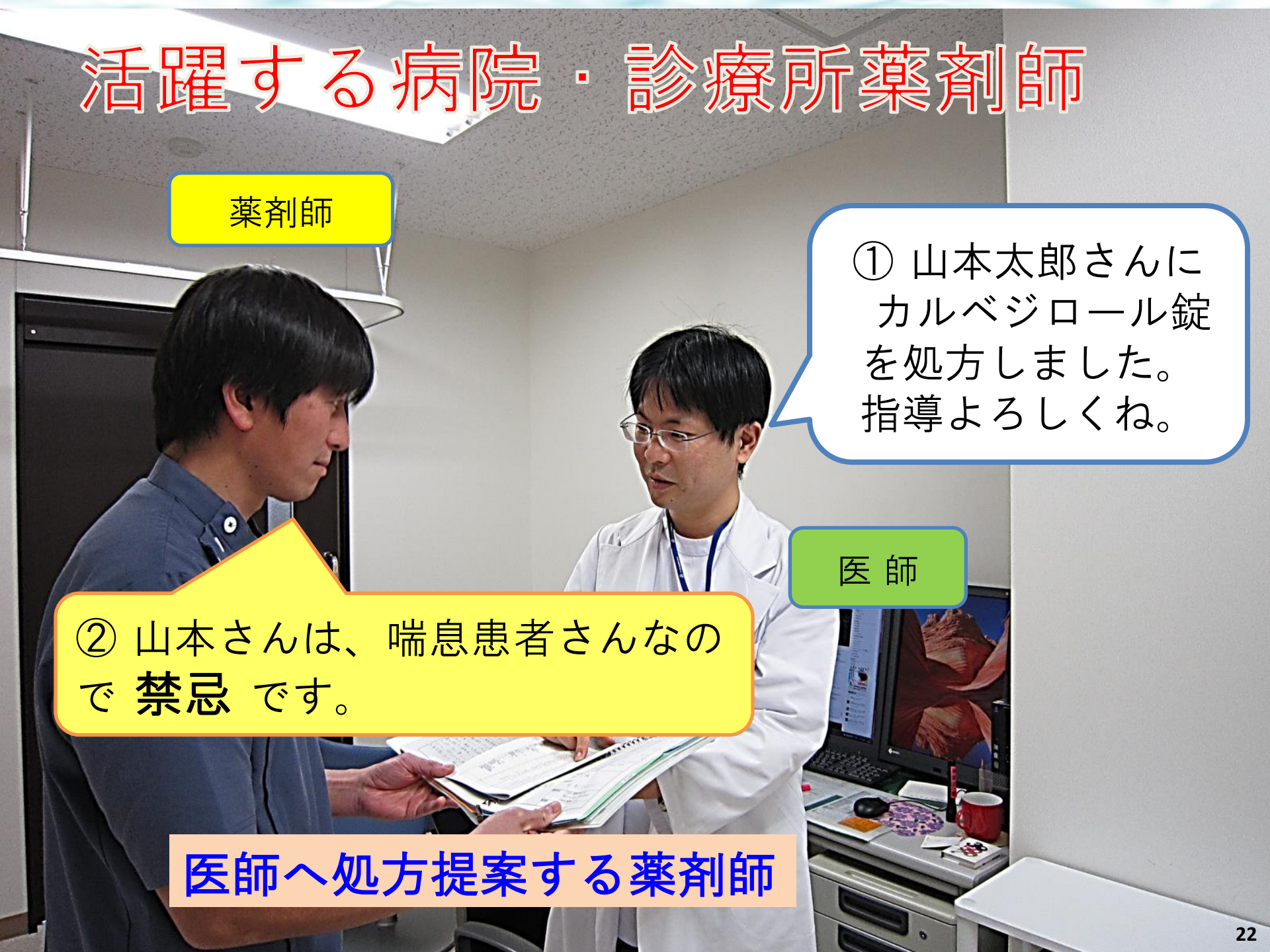
感染制御チームのミーティング

活躍する病院薬剤師



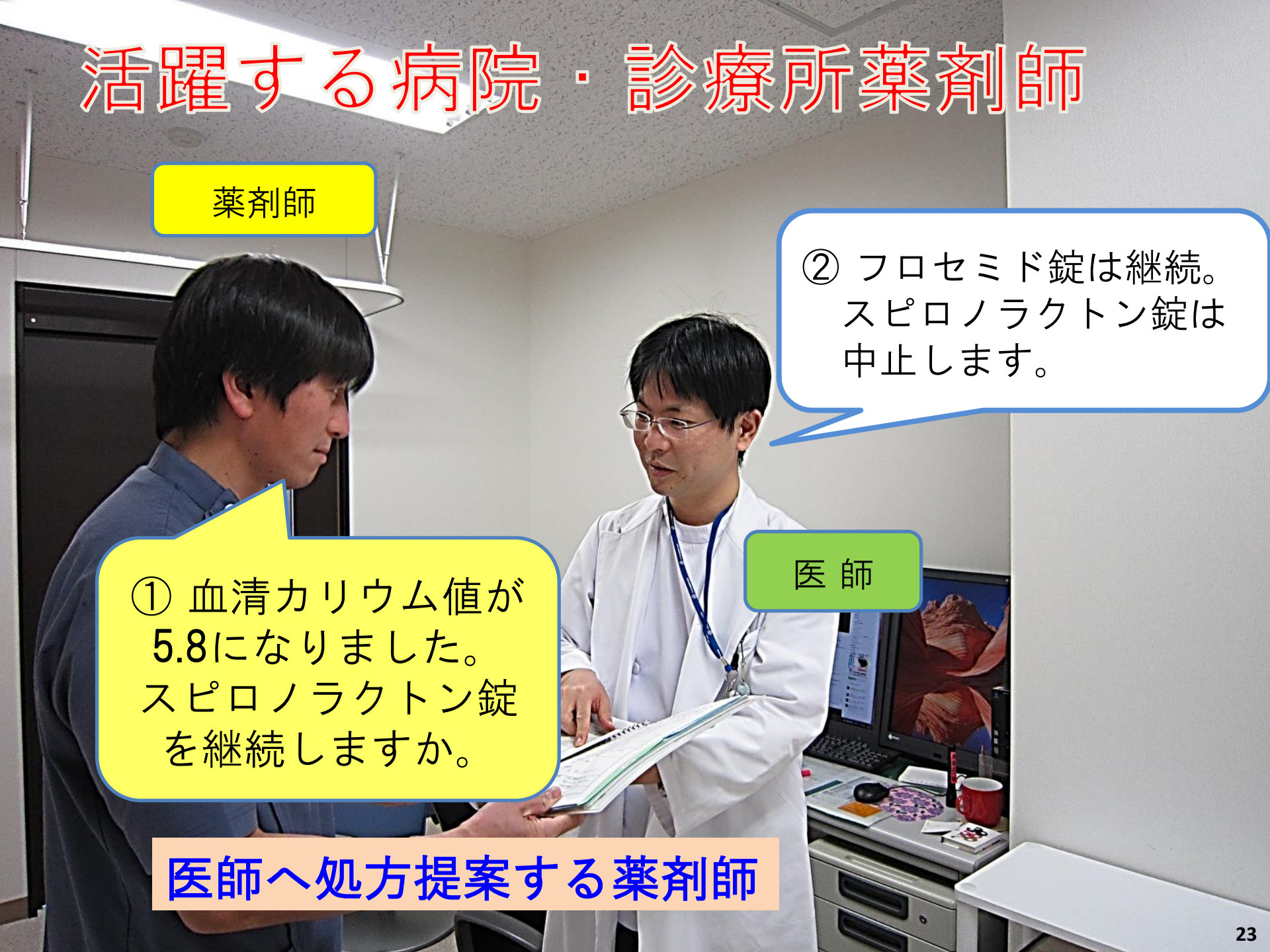
褥瘡対策チームの回診

活躍する病院・診療所薬剤師



医師へ処方提案する薬剤師

活躍する病院・診療所薬剤師



医師へ処方提案する薬剤師

活躍する病院薬剤師

看護学生への講義

活躍する実務実習生

ドライシロップ製剤に
ジュースを混ぜると、
苦くなる薬があります。

薬学生

病院職員への情報提供

皆さんが学んでいる「薬学６年制教育」

医療の質の改善が求められるなか、医療人としての質の高い薬剤師養成に対する期待はとても大きいものがあります。

薬学は従来の主として化学に立脚した「モノ」を対象とする学問はもとより、「ヒト」を対象とする薬物治療に直接関連する学問を発展させることが求められています。

薬剤師を目指す皆さん

基礎的な知識・技術はもとより、豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、課題発見能力・問題解決能力、現場で通用する実践力を学んでいます。

臨床の現場において長期の実務実習を行うなど、6年の薬学教育の中で、医療薬学を十分に学習しています。

医療人としての病院薬剤師

氾濫する情報

- 薬剤師は・・・
  そのなかから医薬品や薬物療法に関して、**エビデンスに基づいた情報**を的確にピックアップ
- その情報の**正確性・妥当性を評価し、臨床現場に応用**することが求められます。

薬剤師には**臨床マインドと研究マインド**のバランスが重要です。

臨床現場において

- 患者さん、他の医療従事者などから出される**医薬品や薬物療法に関する疑問や問題点を抽出し**、さまざまな手法を用いて自ら解決する能力も必要です。

医療従事者としての側面と、**科学者**としての側面が必要です。

特定の疾患に対する薬物療法などについて
特に専門知識を身につけた薬剤師に対して

自分の専門領域を証明する制度として、
各職能団体や学会などで**専門・認定薬剤師制度**
が設立され、年々その取得者は増加しています。

専門性を兼ね備えた薬剤師

医療チームのなかでもその専門性をいかんなく発揮することで、薬物療法へ大きく貢献できます。

「病院薬剤師」
は、
薬学生として学んできた事
を最大限に活かせます。

病院薬剤師の仕事

調剤	製剤	無菌調製
医薬品管理	医薬品情報提供	薬剤管理指導
病棟薬剤業務	薬物治療モニタリング	試験研究
治験	教育	医療安全

調　剤

１．処方箋受付

オーダリングシステム等により医師が処方をコンピューターで入力すると処方箋が調剤室に出力されます。
また、同時に薬袋なども発行されます。

２．処方監査

薬剤師が処方箋の記載事項に不備がないことを確認した後、処方内容が適切かどうかを確認します。

＊剤形･用法･用量･相互作用･投与禁忌･重複投与などの確認

３．疑義照会

必要に応じて処方医師に確認します。

薬剤師法 第２４条（処方箋中の疑義）
薬剤師は、処方箋中に疑わしい点があるときは、その処方箋を交付した医師、歯科医師又は獣医師に問い合わせ、その疑わしい点を確かめた後でなければ、これによって調剤してはならない。

調　剤

４．調剤

錠剤、散剤、水剤、外用剤など、
処方箋に基づき、それぞれ調剤します。

５．鑑査

調剤者とは別の薬剤師が、調剤された薬を再び確認します。

- ◆ 正しい薬が調剤されていること
- ◆ 薬袋の記載事項が適切であること
- ◆ 処方薬の数量、秤取量が正しいこと
- ◆ 処方薬の品質が保たれていること　など

６．投薬

お薬の説明書を活用し、薬効、副作用、
服用（使用）上の注意などの情報提供を行います。

注射薬調剤

入院患者に使用する注射薬を１日分ずつ患者毎に専用カートに取り揃えます。

◆ 注射処方箋監査

- 投与量・投与方法・投与速度・配合変化
- 患者の病態・検査値より処方の適正化

◆ 注射薬取り揃え

- チェックを行った注射処方箋に基づいて、患者一人分ずつ注射薬を取り揃えます。

◆ 鑑査

- 取り揃えた者とは別の薬剤師が鑑査を行います。

◆ 病棟払い出し

病棟へ注射薬を送ると同時に、医師や看護師へ注射薬の適正使用に関する情報提供を行います。

製　剤

【院内製剤の調製】

院内製剤とは

患者さんの病態やニーズに対応するために、
医師の求めに応じて病院内で薬剤師により調製され、
それぞれの病院内の患者に限って用いられる製剤

◆個々の患者に最適な薬剤を最適な投与経路、剤形で投与するのに、市販の医薬品では対応できない薬の調製

◆院内で大量に使用する薬などを一括して調製

◆注射薬をはじめ無菌的に調製する必要のある薬を無菌製剤室で調製

◆臨床研究に用いられる製剤の調製

製剤室で効率的かつ安全に調製を行うことは、医療過誤や院内感染の防止にもつながります。

無菌調製：注射薬混合

患者さんに安全な治療を提供するため、高カロリー輸液やがん化学療法で使用する抗がん剤を無菌の環境下で混合します。

高カロリー輸液

- 糖、アミノ酸、ビタミン、電解質などで構成され、中心静脈（上大静脈や下大静脈）から投与する中心静脈栄養（TPN）輸液の調製
- 無菌で調製することにより感染のリスクを減らし、安全な栄養療法に貢献しています。

がん化学療法（入院・外来）

- がん化学療法における薬剤の用量、投与期間、投与方法等の薬学的知見に基づく確認を行った上で、混合調製
- 無菌で調製することにより感染のリスクを減らし、安全ながん化学療法に貢献しています。

医薬品管理

適切な発注・在庫管理

◆医薬品の管理（温度や湿度等を考慮した品質管理）
◆経済性を考慮した適切な数量管理
◆使用期限の管理
◆在庫数・アイテム数が多いため、取り違い等を防ぐための安全対策

医療用麻薬・覚せい剤原料の管理

◆厳重な保管の下に出納記録

特定生物由来製品
（輸血用血液製剤、血漿分画製剤など）

◆入庫・施用の記録・管理
◆管理簿は、20年間の保管管理が義務

医薬品情報

医薬品情報管理室では医薬品を適正に使用するために医薬品に関する情報を収集・評価し、その情報を医師などの医療従事者や患者さんに提供することが主な業務です。

◆情報の収集・管理
各医薬品に関する新しい情報、その他医薬品を使用する上で必要となる情報を迅速に収集し、情報評価・保管・管理

厚生労働省から発表される副作用情報、製薬会社から伝達される各種情報、医薬品に関する書籍や学術雑誌　など
最近では、医薬品リスク管理計画（RMP)も「特定されたリスク」「潜在的なリスク」を患者モニタリング、副作用原因の究明等々に活用されています。

◆院内イントラネットやインターネットを利用して検索できるデータベースなど様々な情報源を整備

◆医療従事者や患者からの医薬品の質問に対する情報提供

◆後発医薬品（ジェネリック医薬品）の選定

◆薬事委員会の事務局としての関与

地域から保険医療機関へ
（トレーシングレポートの活用）トレーシングレポート

トレーシングレポート（服薬情報提供書）とは、保険薬局で得られた緊急性の低い情報を、処方医に伝える文書を指す。

保険薬局の方へ

2013年8月7日
更新：2018年4月11日

保険薬局　各位

京都大学医学部附属病院
薬剤部長　松原和夫

薬局から処方医師への服薬情報提供書（トレーシングレポート）
の運用について

平素より、当院発行の院外処方箋に応需いただき、ありがとうございます。さて、保険薬局におかれましては、日頃より疑義のある処方について処方医師に対して疑義照会を行っていることと思います。しかし、来局時に患者から聞き取った内服薬のアドヒアランス状況や健康食品の使用に関する情報など、即時性の低い情報について、処方医師へ手際よくフィードバックすることは困難でした。また、情報の中には、診療上、重要な情報が含まれる場合もあります。

そこで京大病院薬剤部では服薬情報提供書（トレーシングレポート）を用意しました。保険薬局にて即時性は低いものの「処方医師への提供が望ましい」と判断された内容についてFaxにて服薬情報提供書を薬剤部まで送信願います。薬剤部にて集約したのち、医師へ情報伝達を行い情報の共有化を図ります。

地域保険薬局との連携を推進することで、適正で安全な薬物療法推進につながるものと考えます。保険薬局各位のご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

服薬情報提供書（トレーシングレポート）
通常用　PDFファイル　Wordファイル
残薬調整用　PDFファイル　Wordファイル（2018年4月変更）

連絡先
京都大学医学部附属病院　薬剤部　薬務室
電話　075-751-3581

FAX：京大病院薬剤部 075-751-3205

保険薬局 → 薬剤部 → 主治医

京都大学医学部附属病院　御中　　報告日：　年　月　日

服薬情報提供書（トレーシングレポート）

担当医　科　先生　御机下	保険薬局　名称・所在地
患者 ID： 患者名：	電話番号： FAX 番号： 担当薬剤師名：　印
この情報を伝えることに対して患者の同意を　□得た。　□得ていない。 □患者は主治医への報告を拒否していますが、治療上重要だと思われますので報告いたします。	

処方せんに基づき調剤を行い、薬剤交付いたしました。
下記の通り、ご報告いたします。ご高配賜りますようお願い申し上げます。

所見

薬剤師としての提案事項

＜注意＞　FAX よる情報伝達は、疑義照会ではありません。緊急性のある疑義照会は通常通り電話にてお願いします。

https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~yakuzai/yakkyoku/20130807.html

院外処方箋への検査値の記載
➡より安全で適正な外来薬物療法の実践

保険薬局の方へ

2013年9月18日

保険薬局　各位

京都大学医学部附属病院
薬剤部長　松原和夫

院外処方せんへの検査値の記載について

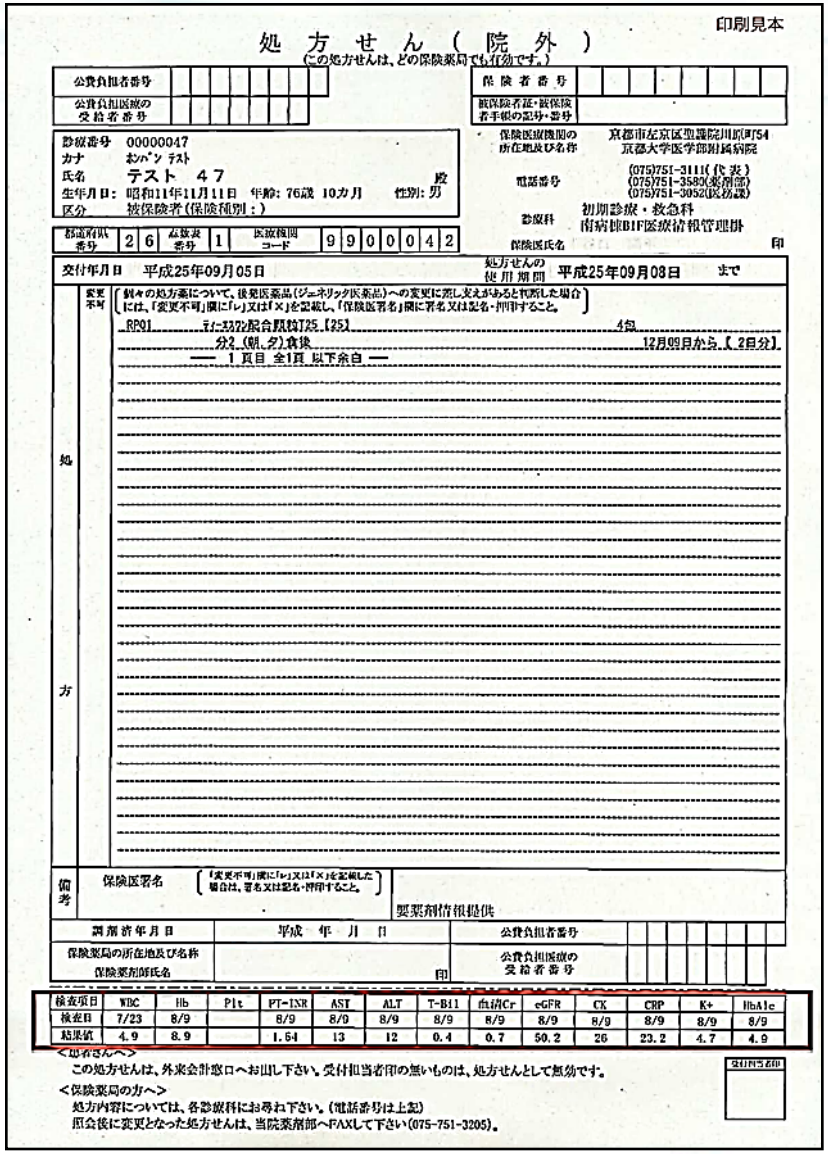
平素より、当院発行の院外処方箋に応需いただき、ありがとうございます。

このたび、京大病院では地域保険薬局との連携の一環として、患者さんの検査値の一部について、処方監査に必要な情報として院外処方せんに記載することといたしました。記載される検査値は過去４ヶ月以内に測定された直近の値です。（空欄の場合は、４ヶ月以内に測定された値がありません）。記載される検査項目、基準値など詳細については、院外処方せんに記載されている検査値一覧表のページをご覧ください。

保険薬局において患者さんの検査値を参照されることで、適正で安全な薬物療法推進につながるものと考えます。保険薬局各位のご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆ 処方せんの印刷見本　PDFファイル
◆ 院外処方せんに記載されている検査値一覧表　PDFファイル

連絡先
京都大学医学部附属病院　薬剤部
電話　075-751-3583（医薬品情報室）、075-751-3580（調剤室）



印刷見本

処　方　せ　ん（院　外）
（この処方せんは、どの保険薬局でも有効です。）

公費負担者番号
公費負担医療の受給者番号
保険者番号
被保険者証・被保険者手帳の記号・番号

診療番号 00000047
カナ ｵﾝﾊﾟﾝ ﾃｽﾄ
氏名 テスト　４７　殿
生年月日：昭和11年11月11日　年齢：76歳 10カ月　性別：男
区分　被保険者（保険種別：）

保険医療機関の所在地及び名称　京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部附属病院
電話番号　(075)751-3111(代表) (075)751-3583(薬剤部) (075)751-3052(医務課)
診療科　初期診療・救急科 南病棟BIF医療情報管理掛
保険医氏名　印

都道府県番号 26　点数表番号 1　医療機関コード 9900042

交付年月日　平成25年09月05日　処方せんの使用期間　平成25年09月08日　まで

変更不可
（個々の処方薬について、後発医薬品（ジェネリック医薬品）への変更に差し支えがあると判断した場合には、「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記載し、「保険医署名」欄に署名又は記名・押印すること。）

処方
RP01　ﾃﾞｶﾄﾛﾝ配合錠ﾊｰﾌ25（25）　4包
分2（朝、夕）食後　12月09日から（2日分）
―― 1頁目 全1頁 以下余白 ――

備考
保険医署名（「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記載した場合は、署名又は記名・押印すること。）
要薬剤情報提供

調剤済年月日　平成　年　月　日　公費負担者番号
保険薬局の所在地及び名称 保険薬剤師氏名　印　公費負担医療の受給者番号

検査項目	WBC	Hb	Plt	PT-INR	AST	ALT	T-Bil	血清Cr	eGFR	CK	CRP	K+	HbA1c
検査日	7/23	8/9		8/9	8/9	8/9	8/9	8/9	8/9	8/9	8/9	8/9	8/9
結果値	4.9	8.9		1.64	13	12	0.4	0.7	50.2	26	23.2	4.7	4.9

<患者さんへ>
この処方せんは、外来会計窓口へお出し下さい。受付担当者印の無いものは、処方せんとして無効です。
<保険薬局の方へ>
処方内容については、各診療科にお尋ね下さい。（電話番号は上記）
照会後に変更となった処方せんは、当院薬剤部へFAXして下さい(075-751-3205)。

https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~yakuzai/yakkyoku/20130918.html

薬剤管理指導業務

薬学的管理

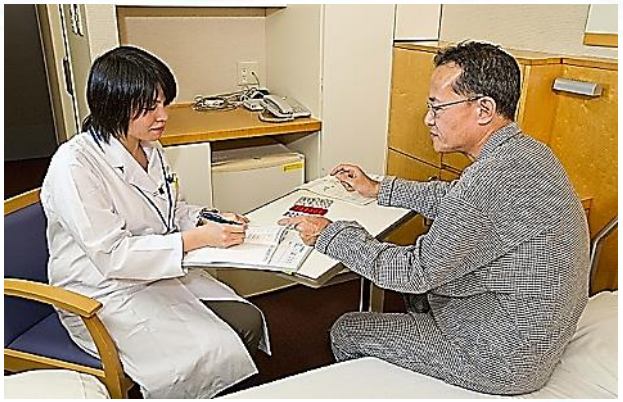
・薬歴、処方内容、相互作用の確認
・ハイリスク薬、麻薬等の対応

説明と指導

・薬剤の説明と指導
・アドヒアランスの評価
・効果、副作用モニタリング
・良好な信頼関係構築
・退院時指導
・薬剤管理指導記録の作成

薬剤管理指導業務

主に<u>投薬後</u>における患者に対する業務



◆ 薬歴の確認

◆ 処方内容の確認

◆ ハイリスク薬や麻薬などへの対応

◆ 患者さんへの説明と指導等

- 患者さんへの投薬（注射剤、内服薬など）について患者さんが十分理解できるよう説明、指導を行います。患者さんとの面談により、良好な信頼関係を構築します。

◆ 退院時指導

- 退院後も適切な薬物療法が継続できるよう、患者さんの相談に応じます。
- 保険薬局との連携

◆ 薬剤管理指導記録簿の作成

- 医師・看護との情報共有

薬剤師の病棟業務の目的

- 薬物療法の有効性、安全性の向上
- 患者のQOLの向上
- 医薬品の適正使用の推進
- 薬剤関連のインシデント・アクシデントの減少
- チーム医療の推進

病棟薬剤業務

主に投薬前の患者に対する業務

- 持参薬の確認
- 患者状況把握
- 処方提案

など

医薬品の情報及び管理に関する業務

- 医薬品情報の収集、提供
- 副作用発現時の対応
- 医薬品の適正な管理

など

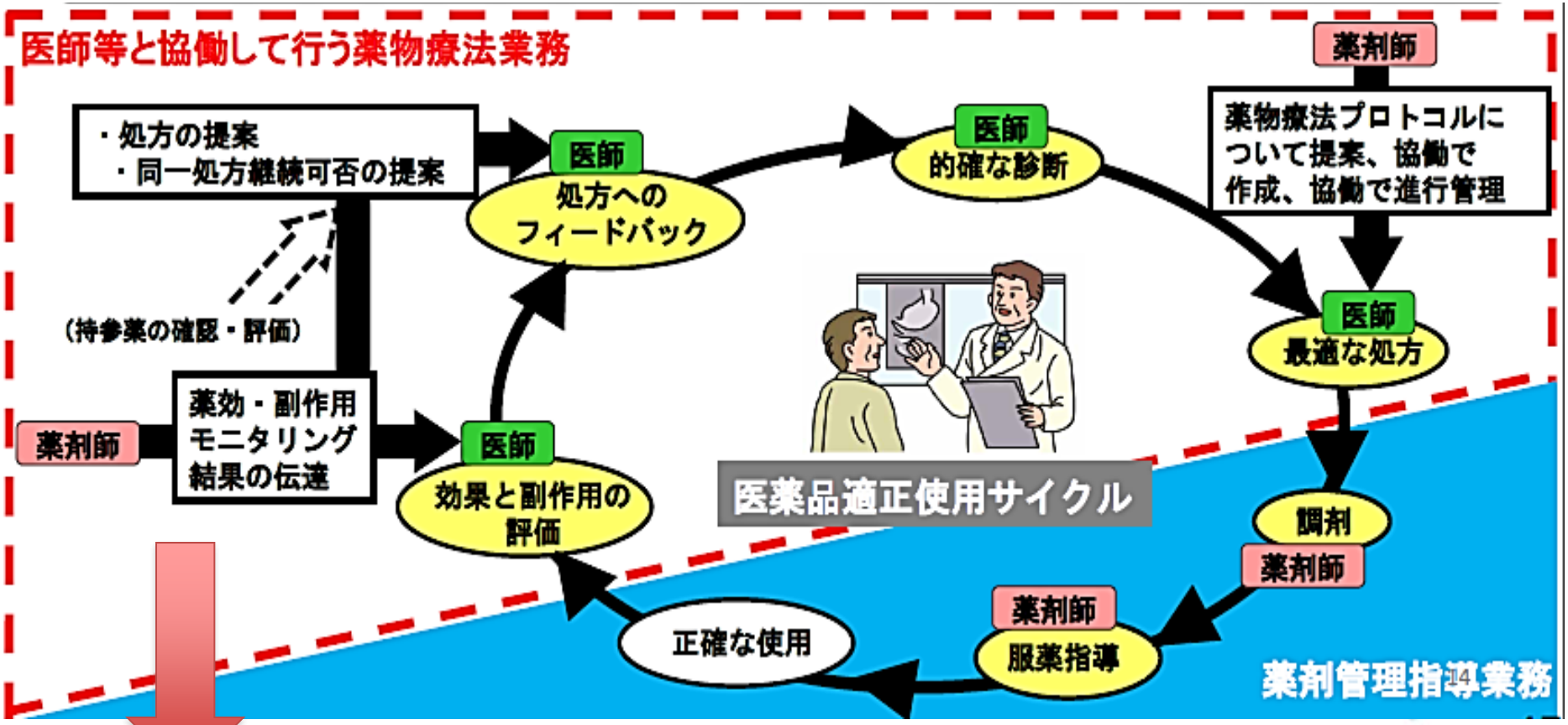
医療スタッフとのコミュニケーション

- 多職種との連携
- 病棟カンファレンスや回診への参加

など

病棟薬剤業務

病院薬剤師が病棟において、薬物療法の質の向上を目的として薬剤関連業務（病棟薬剤業務）を実施しています。



病棟薬剤業務

中央社会保険医療協議会総会（第１８９回）議事資料（総－５－２）
「病院医療従事者の負担軽減について（その２）」を一部改変

病棟薬剤業務

「病棟薬剤業務」は、従来実施されている「薬剤管理指導業務」とは別のものです。
「病棟薬剤業務」に対して実施加算１（週1回、120点）および実施加算２（1日につき、100点）が算定可能です。

医薬品の適正使用サイクルの中で、医師が処方するまでの上流部分が「病棟薬剤業務」、個別の患者さんにアプローチするのが「薬剤管理指導業務」です。

「病棟薬剤業務」実施加算を受けるためには、１週間当たり20時間の病棟薬剤業務を実施する必要があります。

「薬剤管理指導業務」を加えると、病棟担当薬剤師は、通常の勤務時間8時間のうちのほとんどの時間は病棟で勤務をすることになります。

病棟薬剤業務の例

医薬品の投薬・注射状況の把握

使用している医薬品の医薬品安全性情報などの把握及び周知並びに医療従事者からの相談応需

入院時の持参薬の確認及び服薬計画の提案

２種以上（注射薬及び内用薬を１種以上含む。）の薬剤を同時に投与する場合における投与前の相互作用の確認

患者等に対するハイリスク薬などに係る投与前の詳細な説明

薬剤の投与にあたり、流量又は投与量の計算などの実施

その他

必要に応じ、医政局通知（平成２２年４月３０日医政発０４３０第１号）で定める業務　（3、6及び8を除く）

平成２４年度診療報酬改定における主要改定項目について
（病院・診療所薬剤師関係）一般社団法人 日本病院薬剤師会

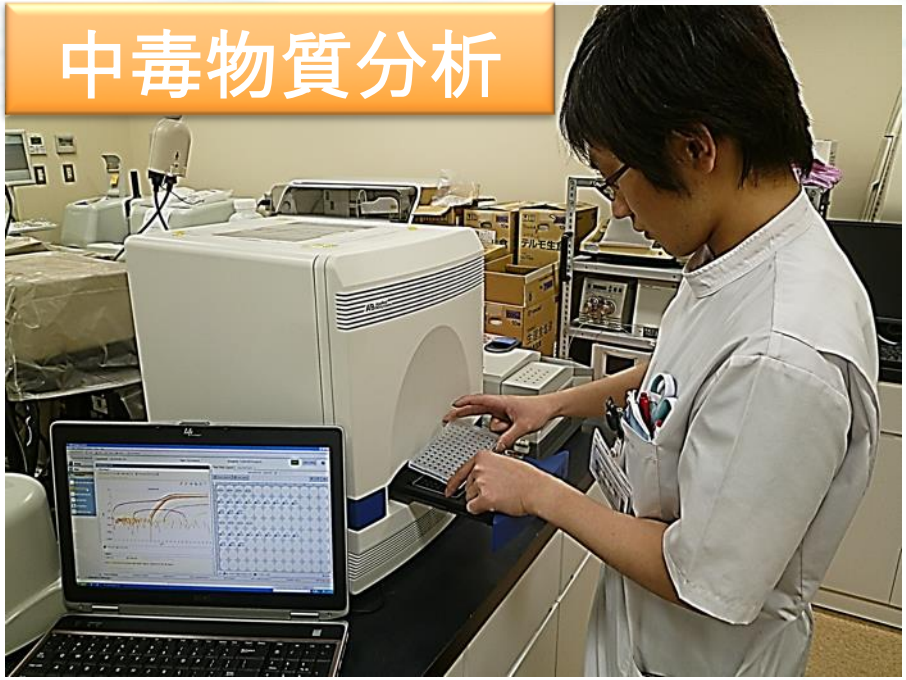
病棟担当薬剤師の活躍例

病棟担当薬剤師の活動状況

他スタッフへの情報提供

服薬指導

高度救命救急センターの担当薬剤師



【業務内容】

- 薬品管理業務（定数薬の確認など）
- 薬剤管理指導業務
- 医師や看護師、その他のスタッフへの情報提供
- 持参薬の鑑別
- 回診への参加
- 中毒物質分析　　など

病棟・医薬品情報カンファレンス

毎週１回（月）
病棟担当者＋医薬品情報担当で実施

（服薬指導室にて）

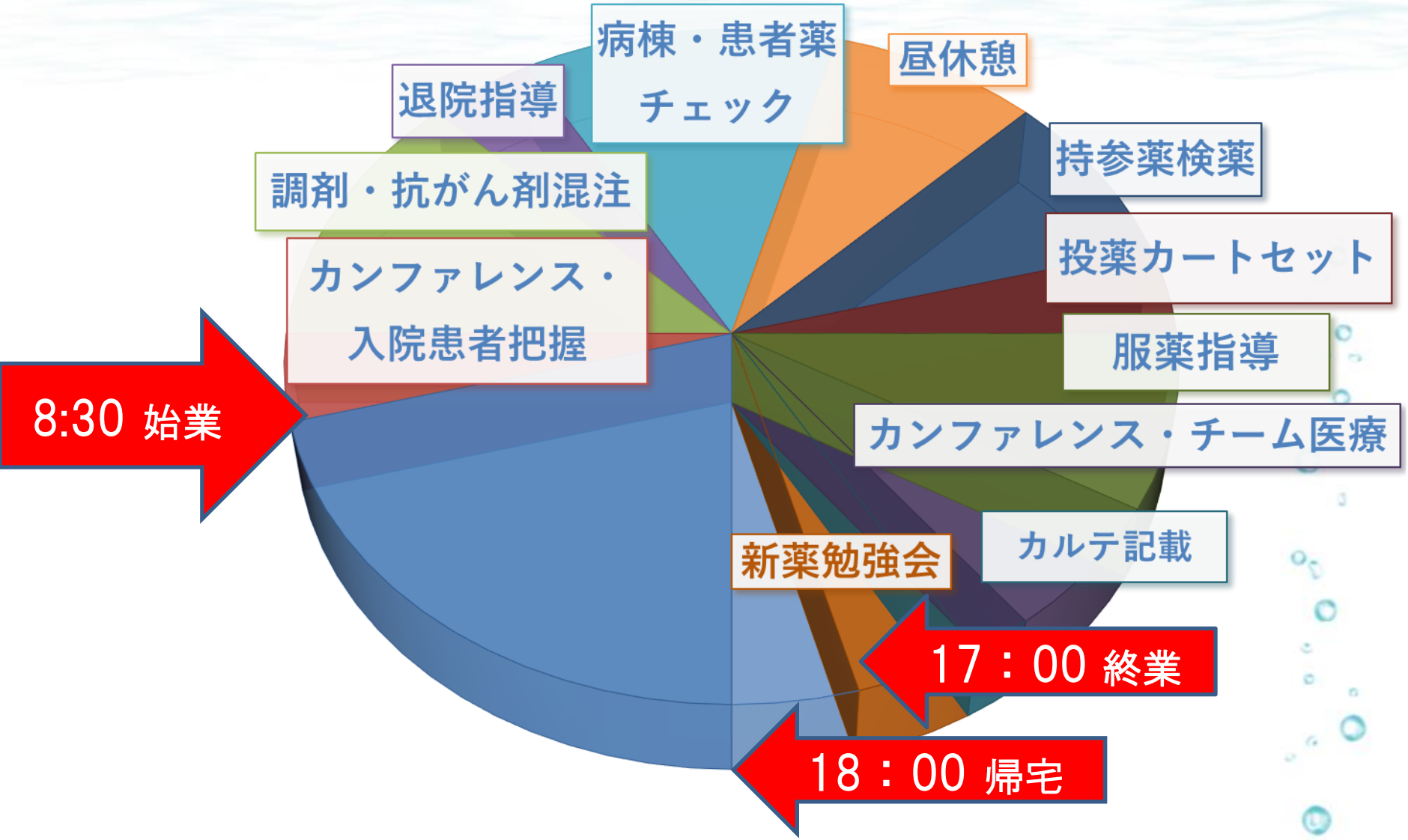
安全性情報や添付文書改訂情報の周知、副作用報告、症例検討を実施
↓
最新の医薬品情報を各病棟担当薬剤師に確実に周知する体制の確立

病棟業務のタイムスケジュール

病棟業務時間　8:30～17:15

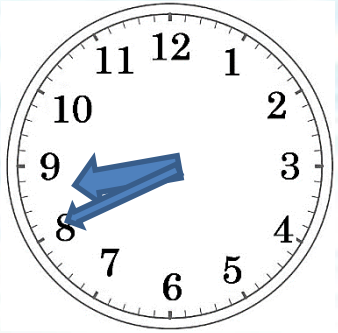
- 持参薬の確認・服薬計画提案
- 服薬指導
- 薬効・副作用のモニタリング
- 処方提案
- 薬の管理（アドヒアランスの確認等）
- 医師・看護師への情報提供・相談対応

病棟勤務体制（ある病院薬剤師の1日）



ある病院薬剤師の1日

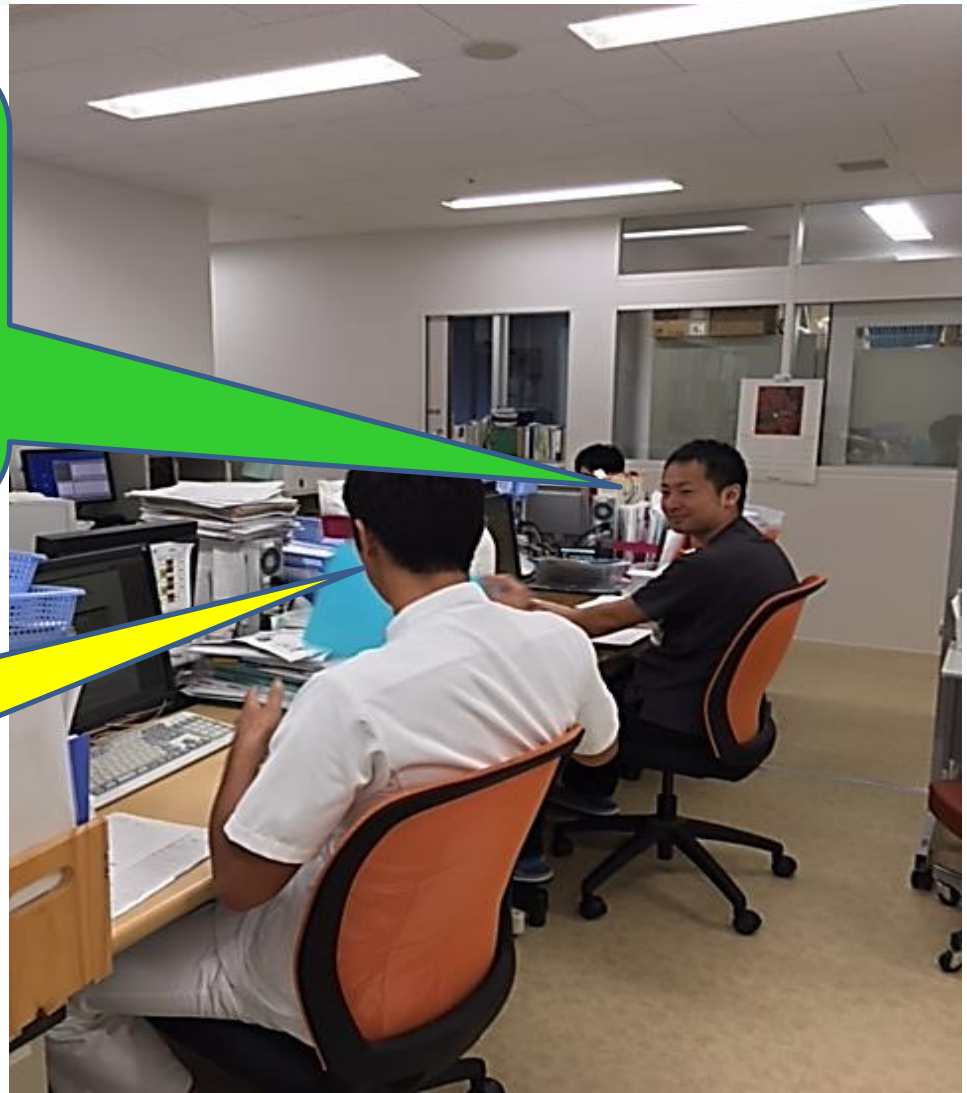
始業

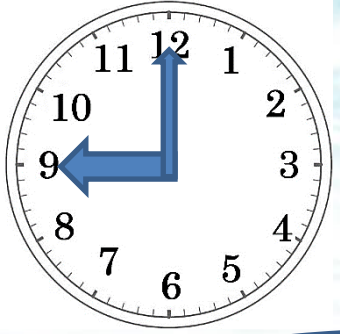


カンファレンス（入院患者把握）

「免疫チェックポイント阻害剤」を使用するので、患者さんと看護師さんに副作用を説明しておこう！

そだねー！！

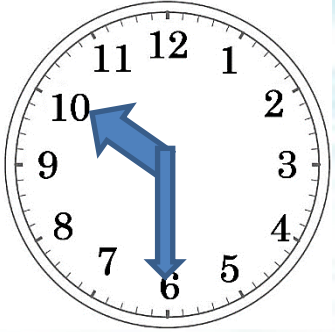




調剤・抗がん剤調製

目視でほかの規格が無いかチェック

ダブルチェックで抜き取り量を確認



入院患者退院指導

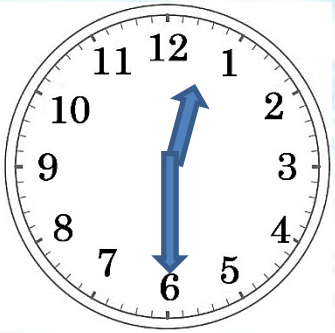
お薬手帳にアレルギー記載してあります。

診察の時医師に見せれば安心だな。

患者薬チェック

明日、手術するから
「抗血小板薬」
休薬中！

「そうなんだ」
納得！



昼休憩

私、今度の長期休暇で
ハワイに行って来る！

栄養つけて午後からもガンバロー！

アフター5
何しようかな～

持参薬管理

他院でPPI服用
しているから
当院のH2ブロッカー
の中止を主治医に依
頼しなくては！

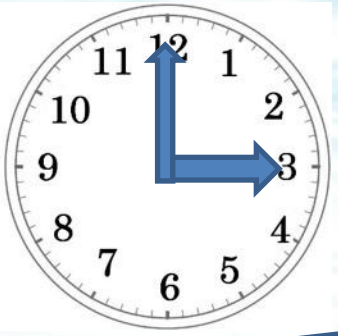
薬のカートセット

明日から持参薬がなくなる
当院採用のジェネリックを
主治医に提案しよう！

服薬指導

命の次に大事な
薬だから
忘れないように
しなくては！

「1日1回朝食後に1錠です」
服用したら印をつけて下さい。



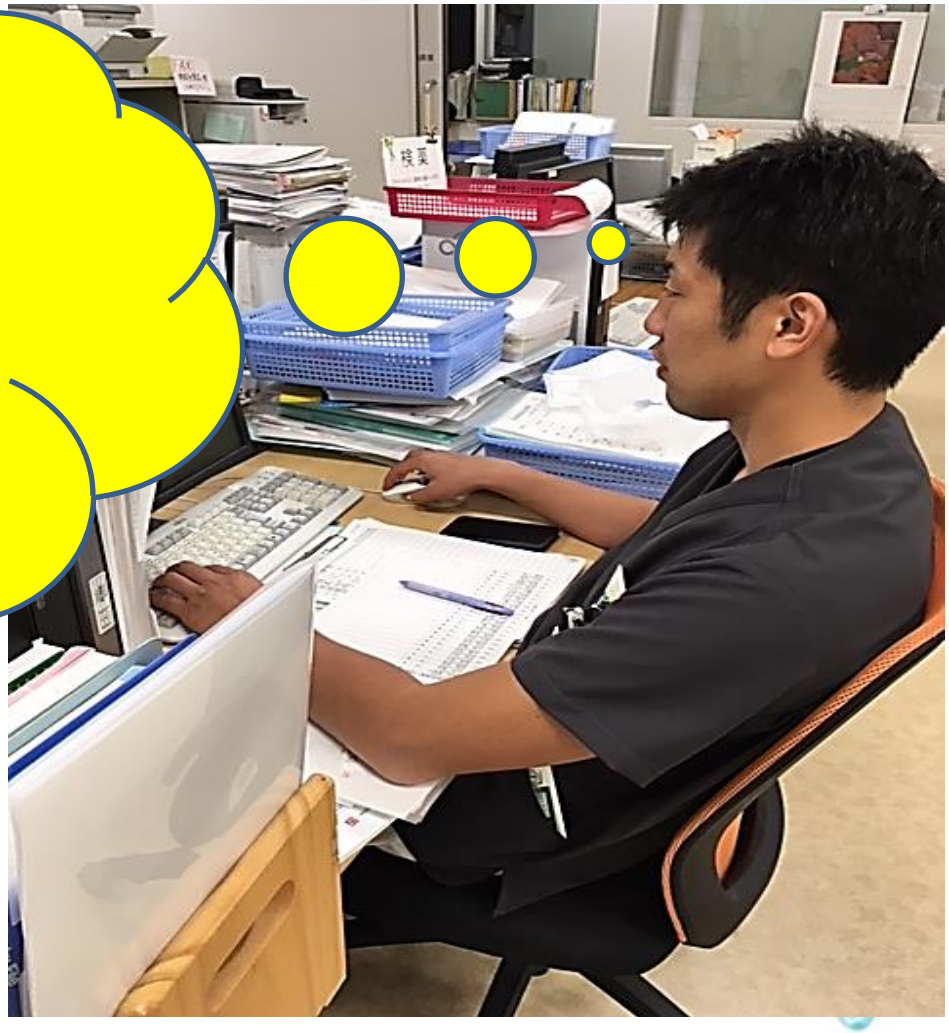
カンファレンス・チーム医療

脂肪乳剤が必要です！
投与時間は5時間以上です！

抗菌薬が効かなくなる
未来に立ち向かえ！
「AMR対策
いきまあーす！」

電子カルテ記録記載

ワルファリンK服用
していた患者さんの
採血依頼を主治医に
メールしておこう



17：00終業

いつもならここで帰宅しま～す。

今日は講演会
「勉強するぞー！」

薬剤師業務例

抗菌薬適正使用：感染症を適切に治す。耐性菌を作らない。

・抗菌薬の効果・副作用についてモニタリング
・血中濃度測定および解析
・薬力学や体内動態などに基づく薬剤や投与量の提案
・注射薬から経口薬への変更提案
・感染症の再発を起こさない治療期間の提案　　など

感染制御：菌（感染症）を広げない。

・病棟の薬品の管理状況の確認
・消毒薬の保管や器具の消毒状況　など

TDM
(Therapeutic Drug Monitoring：治療薬物モニタリング)

治療効果や副作用に関する様々な因子をモニタリングしながらそれぞれの患者に個別化した薬物投与を行うことです。　（TDM学会より）

TDMを活用する場面

・抗菌薬
・免疫抑制薬
・抗不整脈薬
・抗てんかん薬
・中毒診療
など

どんなことを考える？

・採血のタイミングは？
・血中濃度が低い／高い理由は？
・ちゃんと服用しているか？
・相互作用の可能性は？
・今後の投与計画は？　など

臨床薬剤師に必要不可欠なスキル

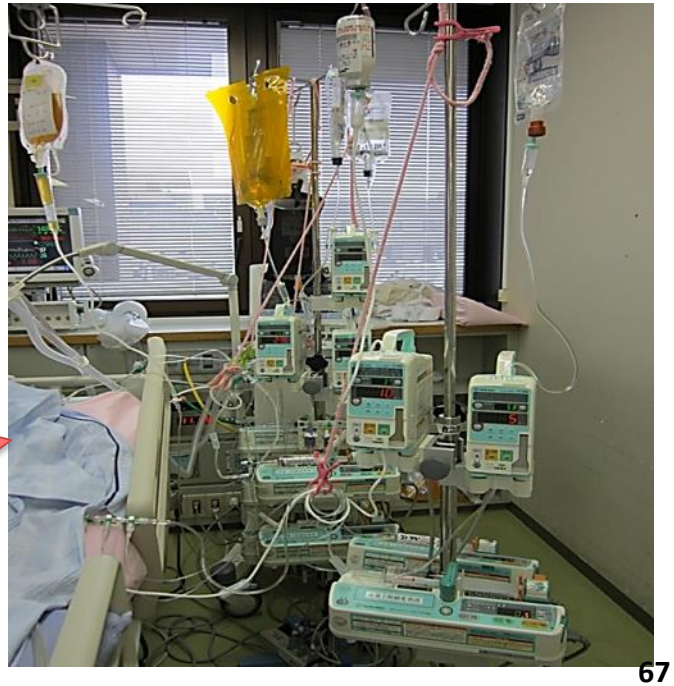
薬剤師業務事例　ICU（集中治療室）

短時間で変動しやすい患者さんの病状や、薬物の代謝・排泄に影響を与える臓器障害の程度を把握し、バイタルサインや検査値などから薬の効果や副作用を確認します。

必要に応じ、薬の種類・用量・投与経路を提案し、重症患者の薬物療法に介入します。

薬剤師が薬のスペシャリストとして力を発揮することが期待される重要な部署の１つです。

カンファレンスの様子



たくさんの輸液やハイリスク薬が輸液ポンプやシリンジポンプによって精密に投与されています。ベッドサイドで流速や配合変化などを確認します。

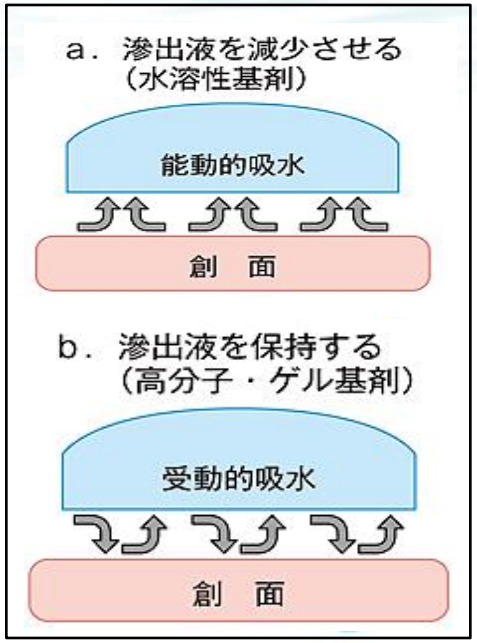
薬剤師業務事例　褥瘡対策チーム

・褥瘡治療薬やドレッシング材の評価と提案
・褥瘡の重症度および経過の評価
・褥瘡に関するデータの収集と解析
・栄養評価（微量元素摂取の提案）
・褥瘡発生の危険因子として考慮すべき薬剤の情報共有

＜処方の提案＞

・外用薬剤種類の選択
　（創の湿潤環境や病期に応じた基剤・薬剤の選択）
・創の状態に合わせた塗布量
・創面移動を考慮した投与方法（創面固定と創内薬剤保護）
・治癒状況に応じた投与期間

基剤の「能動的吸水」と「受動的吸水」



野田康弘，褥瘡会誌，13，24-28（2011）

褥瘡の病期

黒色期 → 黄色期 → 赤色期 → 白色期

日本皮膚科学会ホームページより

薬剤師業務事例　がん化学療法

・良質で安全な化学療法のために

根拠に基づいたレジメンの登録及び管理

処方時における投与量・スケジュールの確認

血液検査・B型肝炎ウイルスの確認

抗がん剤調製

副作用のための支持療法の提案

・良質で安心な化学療法のために

患者さんへの説明(入院・外来)

インフォームドコンセント取得の補助

投与スケジュール、治療の目的

副作用の種類と対処法、治療薬剤費

副作用モニタリング

自覚症状の確認

血液検査等の確認

副作用対策の提案

チームカンファレンス

抗がん剤調製

患者指導

薬剤師業務事例　緩和ケア

・全人的苦痛への対応

人は、健康が脅かされたり、迫りくる死や人生の終わりを感じたりするとき、苦しみを感じます。これらは、脅威がなくなるか、健康が回復するまで消失しません。そのため、ケアに当たり患者の苦しみを理解することが望まれます。苦しみが緩和されるようケアを受けることは患者の権利であり、そのため適切なケアを提供することは医療従事者の責務です。

「専門家をめざすための緩和医療学」南江堂2014年7月1日発行 p.11 より抜粋

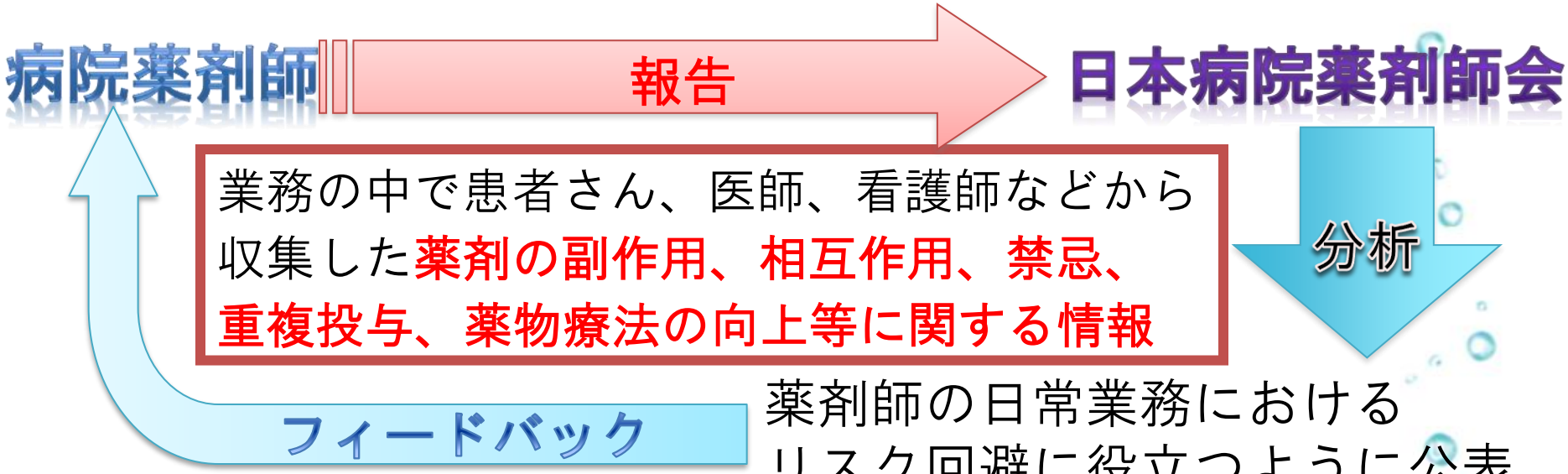
・緩和ケアチームにおける薬剤師の役割

患者さんの身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛等の「全人的な苦痛」に対して多職種で連携して、苦痛緩和のために対処し、サポートを行います。薬剤師は、チームの一員として患者さんの治療に関わるのみならず、チームメンバーに薬学的な情報提供を行っています。薬剤師自ら患者さんの痛みのアセスメントを実施し、チームに共有し適切な薬物治療を提供します。

プレアボイドとは

「PREvent and AVOID the adverse drug reactions」の略称

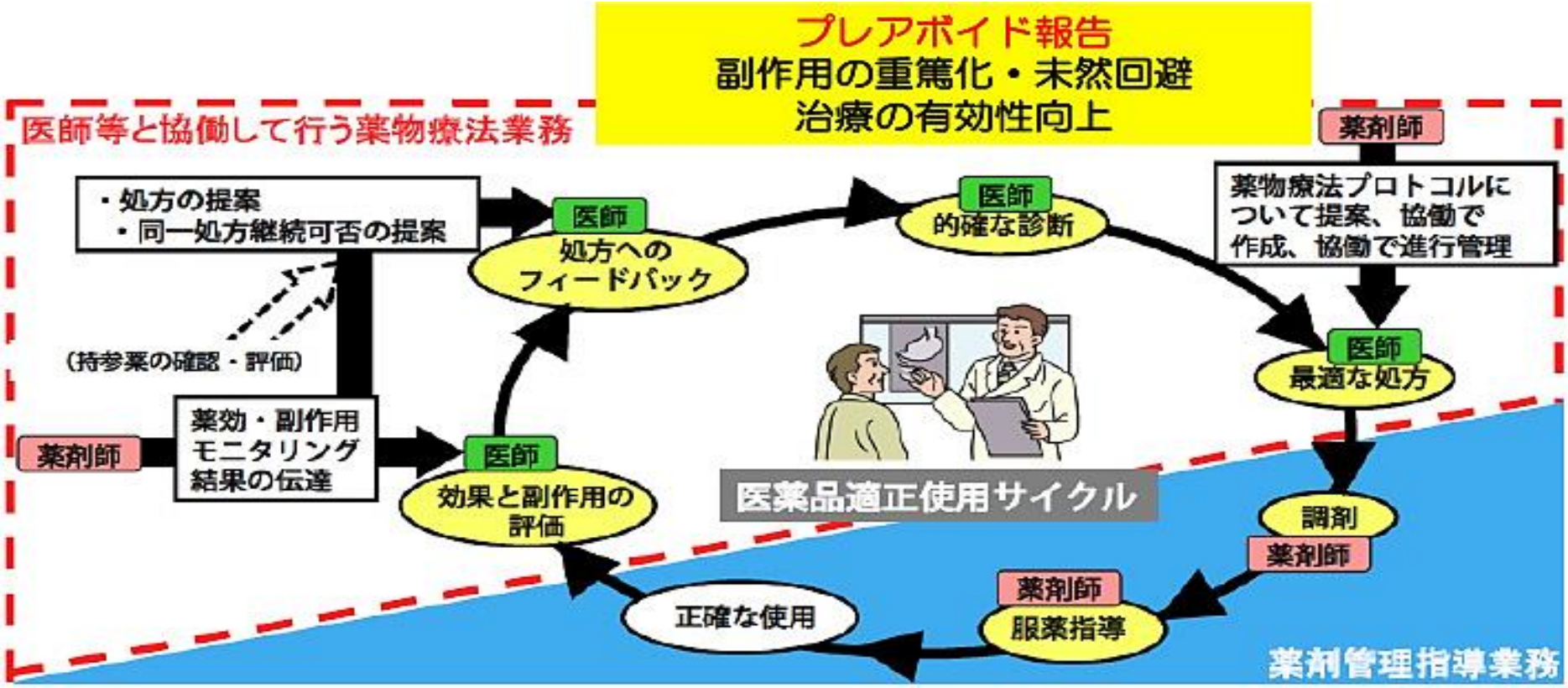
病院薬剤師にとって、薬物療法の安全管理職能がわかる言葉として創られた造語。「プレアボイド=副作用回避」のみならず、薬剤師が 職能を発揮して発見した相互作用、投与禁忌などの未然回避や用量の是正、処方薬の追加提案など薬物療法の向上に寄与した事例もプレアボイドです。



◆副作用の重篤化や遷延化を回避した事例

◆副作用の発現を未然に回避した事例

◆薬物治療効果の向上（薬剤の変更、用量の是正など）により患者不利益を回避した事例



21世紀の医薬品のあり方に関する懇談会
「医薬品の適正使用サイクル」より引用

プレアボイドの具体事例

◆ 副作用の重篤化や遷延化を回避した事例

患者面談によって薬剤の副作用（錐体外路障害など）を発見し、被疑薬の中止・減量を提案した。

◆ 副作用の発現を未然に回避した事例

薬剤の投与量は通常量であったが、この患者は入院時の問診で腎障害のあることを知っていたので、医師に減量するように依頼した。

◆ 薬物治療効果の向上（薬剤の変更、用量の是正など）により患者不利益を回避した事例

患者面談により、がん性疼痛のコントロールが不十分であることが判明したので、オピオイドの増量を提案して翌日より改善した。

チーム医療の推進

【チーム医療】とは

・**多種多様な医療スタッフ**が、各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに、互いに連携・補完し合い、患者さんの状況に的確に対応した医療を提供すること

「医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、チーム医療において薬剤の専門家である薬剤師が主体的に薬物療法に参加することが非常に有益である」

「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」
（医政発0430第1号平成22年4月30日）

＜多職種連携を構成する医療スタッフ＞

医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、保健師、管理栄養士、理学療法士・作業療法士、言語療法士、臨床放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、ケアマネージャー、臨床心理士、医療事務 等

チーム医療における薬剤師の業務

1. 薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更や検査のオーダについて、医師・薬剤師などにより事前に作成・合意された**プロトコールに基づき**、**専門的知見の活用を通じて、医師等と協働して実施**すること。
2. 薬剤選択、投与量、投与方法、投与期間などについて、医師に対し、積極的に**処方を提案**すること。
3. 薬物療法を受けている患者（在宅の患者を含む。）に対し、薬学的管理（患者の**副作用の状況の把握**、服薬指導など）を行うこと。
4. 薬物の血中濃度や副作用のモニタリングなどに基づき、**副作用の発現状況や有効性の確認**を行うとともに、医師に対し、必要に応じて**薬剤の変更などを提案**すること。
5. 薬物療法の経過などを確認した上で、医師に対し、前回の処方内容と同一の内容の**処方を提案**すること。

「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」（医政発0430第1号平成22年4月30日）

6. 外来化学療法を受けている患者に対し、医師などと協働してインフォームドコンセントを実施するとともに、**薬学的管理**を行うこと。

7. 入院患者の持参薬の内容を確認した上で、医師に対し、**服薬計画を提案**するなど、当該患者に対する**薬学的管理**を行うこと。

8. 定期的に患者の**副作用の発現状況の確認**などを行うため、処方内容を分割して調剤すること。

9.**抗がん剤などの適切な無菌調製**を行うこと。

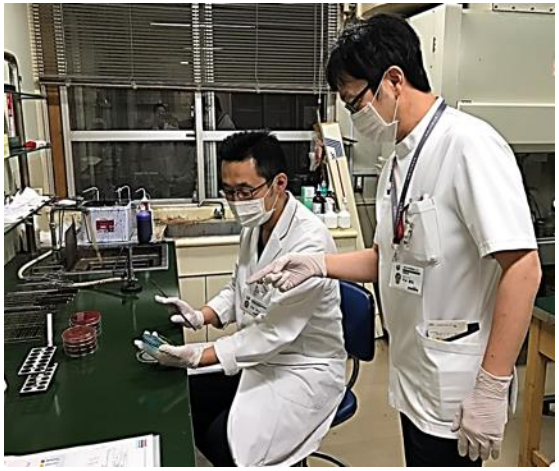
また、薬剤師以外の医療スタッフが、それぞれの専門性を活かして薬剤に関する業務を行う場合においても、医療安全の確保に万全を期す観点から、薬剤師の助言を必要とする場面が想定されることから、薬剤の専門家として**各医療スタッフからの相談に応じることができる体制を整える**ことが望まれる。

「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」（医政発0430第1号平成22年4月30日）

病院薬剤師が関わるチーム医療

◆多職種連携チーム

- 感染制御チーム（ICT）
- 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）
- 栄養サポートチーム（NST）
- 緩和ケアチーム
- がん化学療法支援チーム
- 周術期管理チーム
- 術後疼痛管理チーム
- 摂食嚥下チーム
- 褥瘡管理チーム
- 糖尿病チーム
- 精神科リエゾンーム
- 救急・集中治療ケアチーム
- 骨粗鬆症リエゾンサービス
- HIV診療チーム
- 医療安全管理チーム　　など



ICT/AST活動

病院薬剤師が関わるチーム医療

◆患者教室

- 糖尿病教室
- 腎臓病教室
- 糖尿病性腎症教室
- 心臓病教室
- 肝臓病教室
- リウマチ教室
- 喘息教室
- COPD（慢性閉塞性肺疾患）教室
- 禁煙教室
- 骨粗鬆症教室
- 生活習慣病教室
- パーキンソン病教室　　など

糖尿病集団指導
（薬学実習生同席）

糖尿病性腎症教室

病院薬剤師が関わるチーム医療

◆病棟業務

患者指導

スタッフへの情報提供

◆PBPM(プロトコールに基づく薬物治療管理)

事前に取り決めたプロトコールに基づき、

・ＴＤＭや検査のオーダーを医師等と協働して実施し、医師に対する薬剤の提案、薬剤の投与量・投与期間（投与間隔）の変更を行う。

・服薬方法の変更（粉砕、一包化、一包化対象からの除外等）や薬剤の規格等の変更（内服薬の剤形変更、内服薬や外用薬の規格変更等）を行う。

・持参薬を、院内採用の同種同効薬へ変更処方オーダーの代行入力（※）を行い、医師による処方後、払出す。

（※）医師が確認・署名等を行うことを前提に、医師以外の者が電子カルテに処方や検査の指示等を入力することを指す。

病院薬剤師の様々な業務と、医療安全

- 薬の専門家として、病院薬剤師は、医薬品の適正使用や医療安全を推進するための業務に積極的に取り組んでいます。
- 多職種での診療チームや、院内外における医療連携などにおいても、薬剤師の役割は増しており、薬物療法の質向上に貢献するための業務拡大もつづいています。

病院薬剤師が積極的に取り組んでいる医療安全に関わる業務
・調剤や処方鑑査などにおけるEBM（エビデンスに基づく医療）の実践
・医薬品の管理や適正使用 **（麻薬、毒薬、劇薬、向精神薬、血液製剤、治験使用薬、未承認新規医薬品 等）**
・がん化学療法におけるレジメン管理や無菌調製、患者支援
・薬物血中濃度モニタリング（TDM）による個別化投与設計
・医薬品情報の収集や管理、提供（服薬指導）
・薬物治療の評価、薬学的管理、チーム医療などの実践
・安全な医療提供体制の構築

病院薬剤師によるリスクマネジメント 例

内用薬・外用薬 注射薬の処方鑑査	・薬学的な見地から処方が適切であるか、間違いがないかを鑑査する。 ・疑問点等が生じた場合には、医師へ疑義照会を必ず行う。
医薬品管理	・麻薬や毒薬、劇薬、向精神薬、血液製剤等の医薬品は、調剤や交付、使用、廃棄などに関する手順を定め、特に厳重な管理を行う。 ・品質を管理し、細菌や異物による汚染、光や温度での変質などを防ぐ。
高カロリー輸液や 抗がん剤の調製、 ハイリスク薬の管理	・高カロリー輸液はクリーンベンチで無菌混合し、細菌汚染を防ぐ。 ・抗がん剤は、用法用量等を最終確認し、安全キャビネットで調製する。 ・TDM対象薬やハイリスク薬では、投与前の患者説明やモニタリングを行い、適正な薬学的管理を行う。
医薬品情報提供	・医師や医療スタッフが必要とする医薬品の情報を速やかに提供する。 ・患者さんの持参薬や使用中の薬剤を確認し、薬歴を作成する。 ・新たな薬が開始される際や退院時には、患者さんに服薬指導を行う。
薬学的管理と チーム医療	・使用薬剤や患者さんの状態に応じて、効果や副作用を適切に評価する。 ・多職種が連携したチーム医療や、フィジカルアセスメントの実践により、薬物療法の有効性や安全性の向上に寄与する。
医療安全対策	・医薬品の適正使用推進のために、マニュアルの整備や院内研修会の開催によって知識や技能の向上を図り、安全な医療提供体制を構築する。 ・不幸にして生じた医薬品の副作用や医療事故等は、発生要因を明らかにして、再発防止に向けた対策を講じる。

医療安全対策
セーフティマネージャー、リスクマネージャーとしての病院薬剤師

近年、極めて効果の優れた医薬品が数多く開発されている一方で、複雑な使用方法や重篤な副作用が問題になるなど薬物療法を取り巻く環境も大きく変化しています。

医療事故の約半数は、医薬品関連であるともいわれています。

⇩

薬剤師には、医療安全を推進し、薬物療法の安全性の確保や向上に取り組むことが、強く求められています。

特定機能病院では
「医療安全管理部門への専従の医師・薬剤師・看護師の配置」が承認要件のひとつです。

薬剤関連のミスやインシデント減少への病院薬剤師の貢献

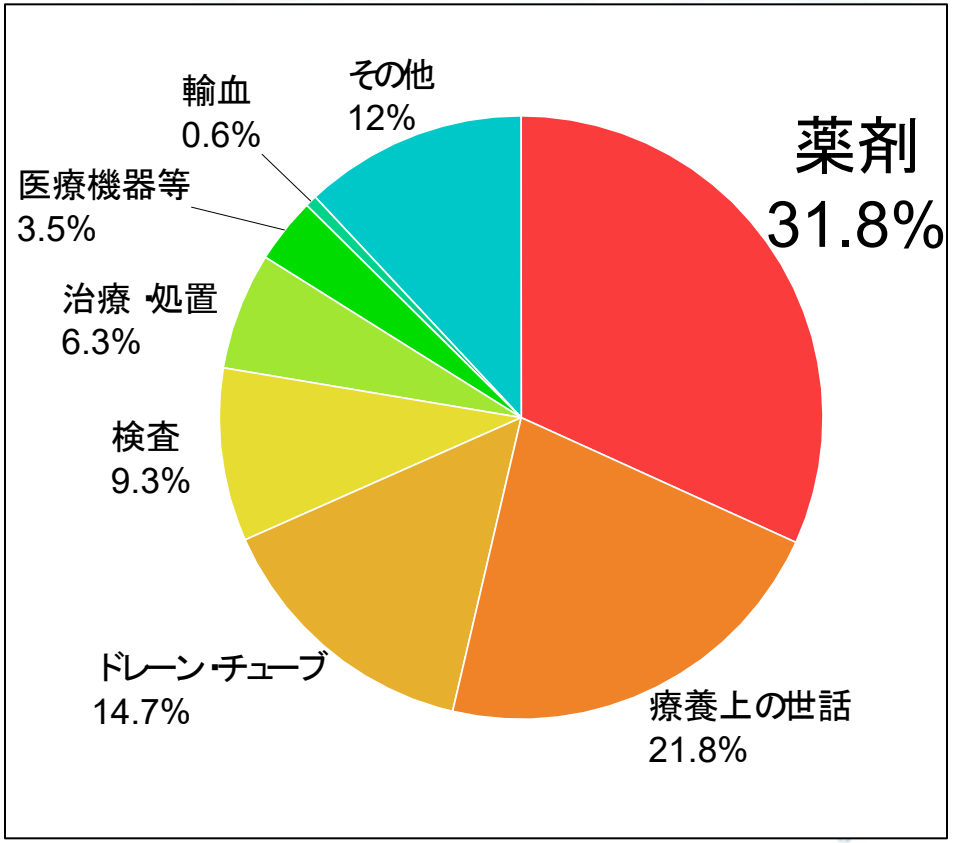
医療現場でのヒヤリ・ハット件数で「薬剤」は全体の32%にも上ります。（医療事故収集等事業 2021年年報）

近年では、薬剤師が病棟に常駐し、医師や看護師等と協働しています。

薬物療法や処方内容の事前検討、注射薬の調製や投与に際しての注意事項確認等を実施することで、**薬剤関連のミスやインシデントの減少に貢献**しています。

病院薬剤師の業務拡大によって医療の質のさらなる向上が期待されます。

ヒヤリ・ハットが発生した場面



総発生件数 = 1,010,921 件
公益財団法人 日本医療機能評価機構
「医療事故情報収集等事業 2021年年報」より抜粋・作図

新しい医薬品の開発（治験）と病院薬剤師

ヒトを対象に、くすりなどの有効性や安全性などを確かめる試験を「**臨床試験**」といい、新しい治療薬やより良い治療法などを見つけるために行われます。

このうち、新たな医薬品（くすり）の候補を用いて国の承認を得るためのデータを集める臨床試験を「**治験**」といいます。治験の対象薬物を「**被験薬**」、治験で使用されるくすりを「**治験使用薬**」といいます。

病院薬剤師は、治験使用薬の管理や、副作用や相互作用等の確認をはじめ、治験に参加された患者さんの指導や相談応需さらには治験コーディネーター（CRC）として治験そのものを管理するなど大きな役割を担っています。

治験コーディネーター（CRC）や治験薬管理者と、病院薬剤師

治験コーディネーター（CRC: Clinical Research Coordinator）

治験においてCRCが果たす役割は極めて大きく、CRCがいなければ治験の実施は事実上不可能です。CRCの主な業務内容はインフォームド・コンセント取得の補助や、治験のスケジュール管理、治験中の患者さんのサポート、症例報告書の作成補助など多岐にわたり、CRCにはコミュニケーション能力、コーディネート能力、リスクマネジメント能力などの様々なスキルが要求されます。看護師や臨床検査技師、薬剤師などがCRCを務めています。

治験薬管理者

医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令（GCP: Good Clinical Practice）において、医療機関における治験薬管理者は“原則として薬剤師とする”とされており、治験薬管理者は治験使用薬を適切に管理しなければならない旨が、規定されています。治験使用薬の適切な保管、管理、調剤等の実施は、治験の倫理性や科学性の確保にも通じるため、薬剤師の貢献度が非常に高い業務です。

治験審査委員や治験事務局員と、病院薬剤師

治験審査委員

治験審査委員会（IRB: Institutional Review Board）は、治験実施機関が治験を実施する際に、厚生労働省に届け出た治験デザインを審査する中立的な組織で、治験の倫理性や、安全性、科学的妥当性などを審査する委員会です。

治験審査委員会の委員には、医師や薬剤師、弁護士、教員などの専門家のほか一般人も加わり、治験の実施の基準（GCP省令）に沿って治験の実施可否を検討します。
治験開始後も定期的に審査を行います。

治験事務局員

治験事務局は、病院などで治験に関する各種記録の管理や、治験実施に関わる様々な事務を担当する組織で、医療機関の施設長（病院長）により指名されます。専門的な知識やスキルも必要なため、薬剤師が事務局員を務める施設も多くあります。

病院薬剤師の新たな取り組み 例（薬剤師外来）

薬剤師外来の目的

・外来患者に対する最適な薬物療法の実施による有効性・安全性の向上
・疾患や状態、生活習慣等を考慮した服薬アドヒアランスや QOL の維持や向上
・他の保険医療機関や保険薬局等と連携し、地域医療を強化することで、
患者の治療を診療チームや地域で支援する。

薬剤師外来にて支援する領域等の例

- 周術期患者（術前外来による休薬、術後の再開　など）
- がん（外来がん化学療法、経口抗がん薬やオピオイド鎮痛薬の自己管理　など）
- 糖尿病（用法用量、自己注射薬の管理、食事療法・運動療法の支援　など）
- 喘息・慢性閉塞性肺疾患（吸入薬・吸入器具の操作手技　など）
- 循環器疾患（ワルファリン、直接経口抗凝固薬(DOAC)の用法用量の管理　など）
- 慢性腎臓病（薬剤の種類、用法用量の管理、透析治療の支援　など）
- 精神疾患（双極性障害、睡眠障害　など）
- 認知症
- 関節リウマチ
- 妊婦・授乳婦
- HIV感染症
- ポリファーマシー（副作用等の有害事象に至る多剤併用）

など

病院薬剤師の新たな取り組み例(特殊部門等での業務)

- **手術部（周術期薬剤管理）**
  - ・麻薬、筋弛緩薬、麻酔薬、輸液等の管理、術中使用薬剤のセット
  - ・術前・術中・術後使用薬の確認、術後感染予防抗菌薬の管理　など
- **入退院センター**
  - ・持参薬・使用中の薬剤、副作用歴、アレルギー歴の確認
  - ・検査値、術前中止薬の確認と指導　　など
- **医療安全管理部門（特定機能病院には専従の薬剤師が必要）**
  - ・職員教育、ヒヤリハットやインシデント事例等の情報収集
  - ・要因分析や再発防止策の実施による安全な医療提供体制の構築　など
- **放射線管理部門**
  - ・放射性医薬品の調製、管理、運用　　など
- **各種診療チーム**

  がん診療支援チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、
  糖尿病サポートチーム、摂食・嚥下サポートチーム、口腔ケアチーム
  感染制御チーム、抗菌薬適正使用支援チーム、褥瘡対策チーム　など
- **プロトコールに基づく薬物治療管理（PBPM）業務**

  薬剤の種類、用法用量、投与期間等の変更や、検査等のオーダについて、
  事前に作成・合意されたプロトコールに基づき、専門的知見の活用を通じて、
  医師等と協働して実施する。

病院薬剤師によるバイタルサインチェック
～フィジカルアセスメント～

フィジカルアセスメント研修中の薬剤師

バイタルサインチェック
～フィジカルアセスメント～

バイタルサインとは、生命徴候という意味で、一般的には「呼吸」「意識レベル」「脈拍」「血圧」「体温」の5項目を基本とします。

フィジカルアセスメントは、身体的な患者情報を評価することであり、バイタルサイン測定などの身体診査を行います。

◆ 活用例（全ての診療科が対象）

quick SOFA（qSOFA）：ICU以外（病棟・外来・ER）で敗血症を疑う指標

- 意識状態の変化
（ Glasgow Coma Scale(GCS) 15点未満 ）
- 収縮期血圧　≦　100 mmHg
- 呼吸数　≧　22 回／分

⇒ 2項目を満たした場合には、敗血症を疑う!!

病院薬剤師によるバイタルサインチェック
～フィジカルアセスメント～

薬剤師によるフィジカルアセスメントは、患者さんの身体状態を評価し、最適な薬物療法を提供するための「薬学的管理の一環」として行います。

新たな薬物療法が開始され、副作用が好発するタイミングなどに薬剤師が、患者さんのフィジカルアセスメントを行い、医師や看護師と情報共有することで、副作用の早期発見や有効性評価が可能になり、患者に適した処方提案や服薬指導にもつながります。

その他の活動（例）
大規模災害時等での病院薬剤師の支援活動

DMAT

災害派遣医療チーム
Disaster Medical Assistance Team

災害登録派遣
薬剤師

薬剤師
ボランティア

各病院の
医療救護班

など

※東日本大震災や熊本地震、令和２年７月豪雨における
日本病院薬剤師会の活動記録が当ホームページ（災害医療支援活動）に掲載されています。
ご興味のある方はご参照ください。

大規模災害時等での支援活動
薬剤師の役割（例）

- 医薬品の管理（使用期限、保管状態や品質管理）
- 支援用医薬品の選定や仕分け
- 医薬品の鑑別
  （患者さんが使用中の医薬品など）
- 医薬品情報の提供
  （用法用量、相互作用、禁忌、副作用）
- 処方支援・仮設薬局での調剤
  （避難所や救護所、モバイルファーマシー等での
  災害処方箋応需。代替薬の提案など）
- 服薬指導、お薬相談
- 感染対策、衛生管理
  （新型コロナ、インフルエンザ、ノロウイルスなど）

専門薬剤師

チーム医療の中で薬のエキスパートとして
専門的な知識と技能で貢献しています。

「認定・専門薬剤師」誕生の背景

■医療は医学・薬学の進歩とともに高度化・複雑化している
■医療スタッフは最善の治療を提供するため、
さまざまな職種がチームを組み、
連携して治療にあたっている
■医療チームの一員として臨床現場に立つ中、
専門領域の最新知識・技術が、
薬剤師にも求められている

✓専門領域の医療・薬物療法について、
高度な知識・技能を持つ薬のエキスパート
✓薬学的視点を活かして、医療現場で役立つ
最新の専門情報を医療スタッフに提供、
治療がより効果的で安全に行えるように活躍

詳しくは、日本病院薬剤師会ホームページ
病院薬剤師になろう→作成パンフレット等

日本病院薬剤師会が認定する 認定・専門薬剤師

■日本病院薬剤師会では、5つの領域で、一定の知識と技能を持つ薬剤師を「認定薬剤師・専門薬剤師」として認定

認定・専門薬剤師（令和7年4月現在）	認定者数合計
がん薬物療法認定薬剤師	1,035名
がん薬物療法専門薬剤師	73名
感染制御認定薬剤師	1,084名
感染制御専門薬剤師	345名
精神科薬物療法認定薬剤師	199名
精神科薬物療法専門薬剤師	63名
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師	171名
妊婦・授乳婦薬物療法専門薬剤師	26名
HIV感染症薬物療法認定薬剤師	105名
HIV感染症薬物療法専門薬剤師	30名

認定・専門薬剤師の仕事

知　　識

●専門領域の治療薬や
薬物療法を熟知
●最新の治療薬や薬物療法の
情報を収集・評価・活用
✓処方設計支援
✓副作用の未然回避

経　　験

●専門領域の薬物治療の
経験が豊富、臨床経験を
薬物療法の決定に活用
✓ハイリスク薬の適正使用
✓薬物治療以外の問題にも
取り組む

研　　究

●専門領域における最先端の
薬物療法を調査・研究
●成果を学会・学術誌に報告
●医療技術を進展させ、
より優れた薬物療法の
開発に貢献

教育・研修

●後進薬剤師の育成
●薬学部学生、
専門領域を目指す薬剤師、
病院内の医療スタッフ
に対する教育・指導

認定・専門薬剤師になるには

■目指すのは「専門性を兼ね備えたジェネラリスト」

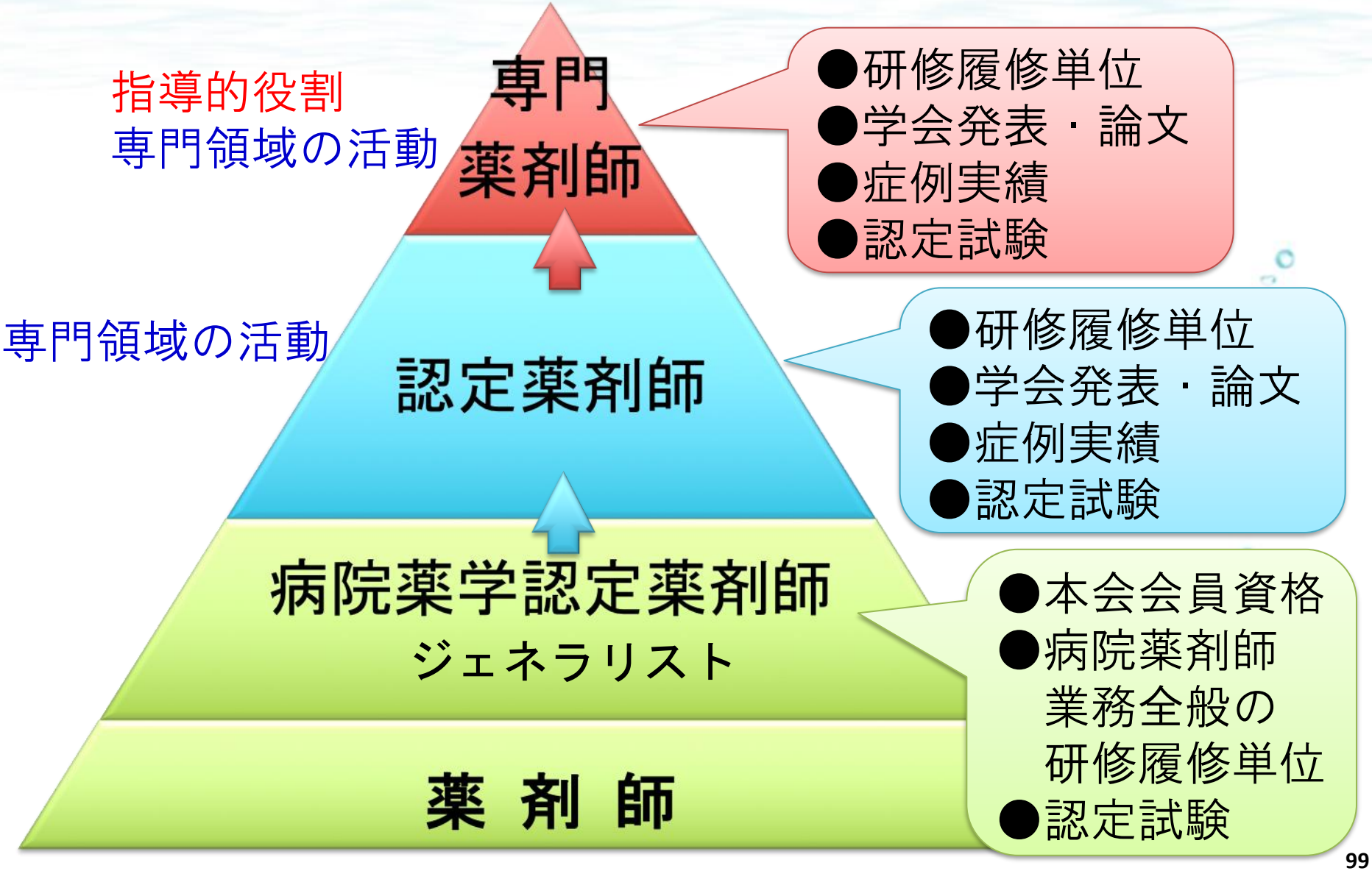
STEP①：日病薬・病院薬学認定薬剤師
病院薬剤業務全般の基本的な知識と技術を身につける

STEP②：領域別認定薬剤師（認定審査試験に合格）
専門分野における薬物療法等の十分な知識と技術を用いて、質の高い業務を実践

STEP③：領域別専門薬剤師（認定審査試験に合格）
十分な知識と技術を用いて、質の高い業務を実践するとともに、他の薬剤師への指導的役割を担い、研究活動等も行う

✓医学・薬学、医療の進歩に遅れないよう知識・技術を高める必要性があるため、認定を受けた後も資格更新が必要
✓日本病院薬剤師会以外にも、さまざまな学会・団体で専門的な知識・技能をもった薬剤師を認定

認定薬剤師と専門薬剤師
（日本病院薬剤師会）



がん薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師

がん薬物療法を発展させ、支えていくために

■がん治療には「手術、薬物療法、放射線治療などを組み合わせた集学的治療」と、「がんに伴う体と心のさまざまな苦痛に対する症状を和らげる緩和治療」がある

■高度な専門性をもつ多職種によるチーム医療で患者を支援

■がん治療に関わる全ての薬に対して高度な知識・技能を持ち、常に最新情報を収集して、がん薬物治療を支える

認定薬剤師の仕事は・・・

●患者に最善な抗がん薬の選択支援や副作用対策

●抗がん薬を安全に取り扱うための適切な管理と無菌調製

●がんによる痛みの緩和

●情報収集・評価、教育・啓発

感染制御認定薬剤師・専門薬剤師

医療関連感染を防ぐために

■医療機関には免疫力が低下した人や乳幼児、高齢者など感染症にかかりやすい患者が多く集まっている

■感染症は細菌やウイルスなど病原体の感染により起こる病気で、他の病気と異なり伝播・伝染が特徴

■特にMRSAなどの抗菌薬耐性菌、インフルエンザウイルス、ノロウイルスなどによる医療関連感染が大きな課題

■耐性菌対策は世界規模で喫緊の課題

認定・専門薬剤師の仕事は・・・

●感染対策チームで病院内を巡視、病院内状況の把握と対策の協議

●消毒薬や抗菌薬の適正使用推進

●指針や手順書の作成

●情報収集・評価、教育・啓発

精神科薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師

患者の社会復帰までも支えるために

■精神疾患を有する総患者数は約420万人（2017年）で増加傾向
■早期退院と自立した地域生活への復帰を目指して
治療をすすめているため、医療と福祉の連携が不可欠
■安全かつ適切な精神科薬物治療を提供するため、
高度な知識と多くの臨床経験を活かして、
入院中の治療から退院後の社会復帰まで支援
■うつ病対策、薬物乱用防止活動、認知症への対応など、
精神科医療に関連する社会的問題に対応

認定・専門薬剤師の仕事は・・・
●薬物治療の最適化を推進
●副作用の未然回避・早期発見
●薬物治療のアドバイザー
●社会復帰の支援

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師

母体と胎児・乳児の健康と安心を支えるために

■胎盤や母乳を通して移行する薬もあるため、
妊婦・授乳婦は胎児・乳児への影響を考慮して薬物治療

■倫理的配慮から研究や情報が少なく、薬物投与を判断・推奨し難いため、不安感を抱く、断乳する患者が少なくない

■国内外の最新かつ幅広い医薬情報を収集・評価し、
産科医、小児科医、原疾患の主治医、助産師と連携して、
最善の薬物療法を提案、カウンセリングも担当

認定・専門薬剤師の仕事は・・・

●情報調査と薬学的評価に基づく
医師との協働

●妊婦・授乳婦服薬カウンセリング

●胎児リスクの疫学研究と
母乳移行の解析研究

HIV感染症薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師

■現在の治療法ではヒト免疫不全ウイルス（HIV）を
体内から完全に排除できないため、
患者は生涯、治療薬の服用が必要

服薬アドヒアランスを高め、薬を安全に使用するために

■自分の意思で服薬し続けること、
高い服薬遵守率の維持が治療成功の鍵

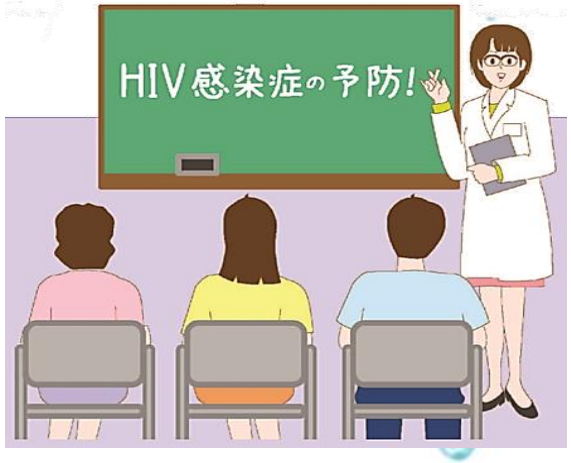
■常に最新情報を収集・評価し、最善の薬物療法を提案、
医療チームの一員として患者を支援

認定・専門薬剤師の仕事は・・・

●最適な治療への貢献、
薬物治療を有効かつ安全に実施

●アドヒアランスを高める服薬支援

●社会的問題、医療制度や
予防啓発への取り組み



日本病院薬剤師会以外の各種認定資格例

領域	資格名称	認定団体
多領域の知識・技能	医療薬学専門薬剤師 薬物療法専門薬剤師	日本医療薬学会
	研修認定薬剤師	日本薬剤師研修センター
がん・緩和	がん専門薬剤師	日本医療薬学会
	外来がん治療認定薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会
	緩和薬物療法認定薬剤師 緩和医療専門薬剤師	日本緩和医療薬学会
感染症	抗菌化学療法認定薬剤師	日本化学療法学会
栄養	NST専門療養士 臨床栄養代謝専門療法士	日本栄養治療学会
内分泌	糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構
	糖尿病薬物療法認定薬剤師	日本くすりと糖尿病学会
腎臓病	腎臓病薬物療法認定薬剤師 腎臓病薬物療法専門薬剤師	日本腎臓病薬物療法学会
医療情報	医薬品情報専門薬剤師	日本医薬品情報学会
	（上級）医療情報技師	日本医療情報学会

日本病院薬剤師会以外の各種認定資格例

領域	資格名称	認定団体
免疫	日本リウマチ財団登録薬剤師	日本リウマチ財団
皮膚	学会認定師	日本褥瘡学会
小児	小児薬物療法認定薬剤師	日本薬剤師研修センター
救急医療	救急認定薬剤師 救急専門薬剤師	日本臨床救急医学会
	認定クリニカル・トキシコロジスト	日本中毒学会
災害医療	災害医療認定薬剤師	日本災害医学会
臨床試験	認定薬剤師 認定CRC	日本臨床薬理学会
漢方・生薬	漢方薬・生薬認定薬剤師	日本薬剤師研修センター 日本生薬学会
ドーピング	公認スポーツファーマシスト	日本アンチ・ドーピング機構
在宅医療	在宅療養支援認定薬剤師	日本在宅薬学会
総合診療	プライマリ・ケア認定薬剤師	日本プライマリ・ケア連合学会
高齢者	老年薬学認定薬剤師	日本老年薬学会

開設者別病院数

各年10月1日現在

	施設数		構成割合(%)	
	令和5年(2023)	令和4年(2022)	令和5年(2023)	令和4年(2022)
総数	8122	8156	100.0	100.0
国	317	316	3.9	3.9
公的医療機関	1191	1195	14.7	14.7
社会保険関係団体	46	47	0.6	0.6
医療法人	5658	5658	69.7	69.4
個人	107	126	1.3	1.5
その他	803	814	9.9	10.0

令和5年(2023)医療施設(静態・動態)調査・病院報告

病床規模別病院数

各年10月1日現在

	施設数		構成割合(%)		
	令和5年(2023)	令和4年(2022)	令和5年(2023)	令和4年(2022)	
総数	**8122**	8156	100.0	100.0	**累積**
20～ 49床	919	915	11.3	11.2	
50～ 99	1997	1998	24.6	24.5	
100～149	1410	1431	17.4	17.5	53.3%
150～199	1378	1364	17.0	16.7	70.3%
200～299	1013	1027	12.5	12.6	82.8%
300～399	670	668	8.2	8.2	91.0%
400～499	354	365	4.4	4.5	
500～599	153	158	1.9	1.9	
600～699	108	111	1.3	1.4	9.1%
700～799	41	39	0.5	0.5	
800～899	28	27	0.3	0.3	
900床以上	51	53	0.6	0.6	

令和5年(2023)医療施設(静態・動態)調査・病院報告

施設・業務の種別にみた薬剤師数

令和4年12月31日現在

施設・業務の種別		内訳 実数（人）	内訳 構成割合（%）	実数計（人）	構成割合（%）
総数				323,690	100
薬局の従事者	薬局の開設者又は薬局の代表者	16,723	5.2	190,735	58.9
	薬局の勤務者	174,012	53.7		
病院/診療所の従事者	病院の調剤・病棟業務の従事者	59,574	18.4	62,463	19.3
	治験・検査等業務の従事者	2,889	0.9		
	診療所の従事者	5,878	1.8		
大学の従事者	研究・教育	4,442	1.4	4,902	1.5
	大学院生又は研究生	460	0.1		
医薬品関係企業の従事者	医薬品製造販売業・製造業	25,786	8.0	37,086	11.5
	医薬品販売業	11,300	3.5		
衛生行政機関 又は 保健衛生施設の従事者				6,927	2.1
その他の者	その他の業務の従事者	8,506	2.6	20,486	6.3
	無職の者	11,980	3.7		

注：「総数」には、「施設・業務の種別」の不詳を含む。

厚生労働省発表資料：令和2年（2022年）医師・歯科医師・薬剤師調査の概況より抜粋

中小病院では病棟活動はできているの？？
実際に勤務されている現職薬剤師の声

中小病院ってどんなところ

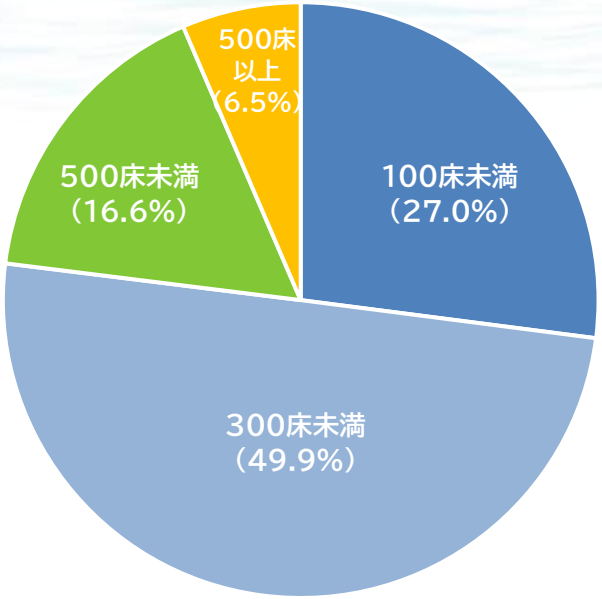
・「専門性の高い単科病院」や「地域密着型」
・「ケアミックス」「基幹病院支援型」のことが多いです。

・薬剤部門がコンパクトで個人が業務全般に関わります。
・業務の細分化が少なく調剤のみすることはありません。
・規模が小さいため独特の取り組みをしやすいです。
→丁寧なカルテチェックによる処方監査後にのみ調剤する。細菌グラム染色をする etc.
・医師の顔が見えての疑義照会のためやりやすいです。
・結果、総合力が付きます。

医師、看護師、検査技師、栄養士と関係性の垣根が低く、チーム医療が多くの施設で行われています。

病院薬剤師の所属施設は？

日病薬会員施設の病床規模別割合（R5.1）

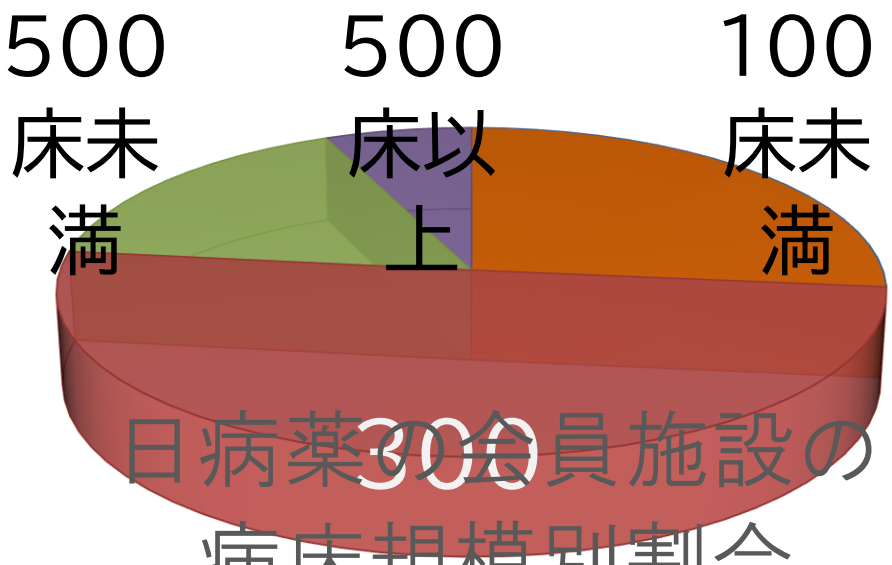


全国の病院に勤務する薬剤師の８０％以上が日本病院薬剤師会に入会しています。
会員施設（約６,３５０施設）の７５％以上が ３００床未満の病院です。

（令和５年１月データ）

多くの病院で日本病院薬剤師会会員が活躍しています。

病院は規模別に分かれる



日病薬の会員施設の病床規模別割合（2024.5）

300床未満という規模の病院が計７６．８％

比較的コンパクトな病院が多い

ケアミックスという機能

一般病床と療養病床、精神病床、
専門医師配置など
複数の医療機能に対応した
外来・病棟を持つ病院

状態の悪化した患者さんの
緊急入院もしばしば

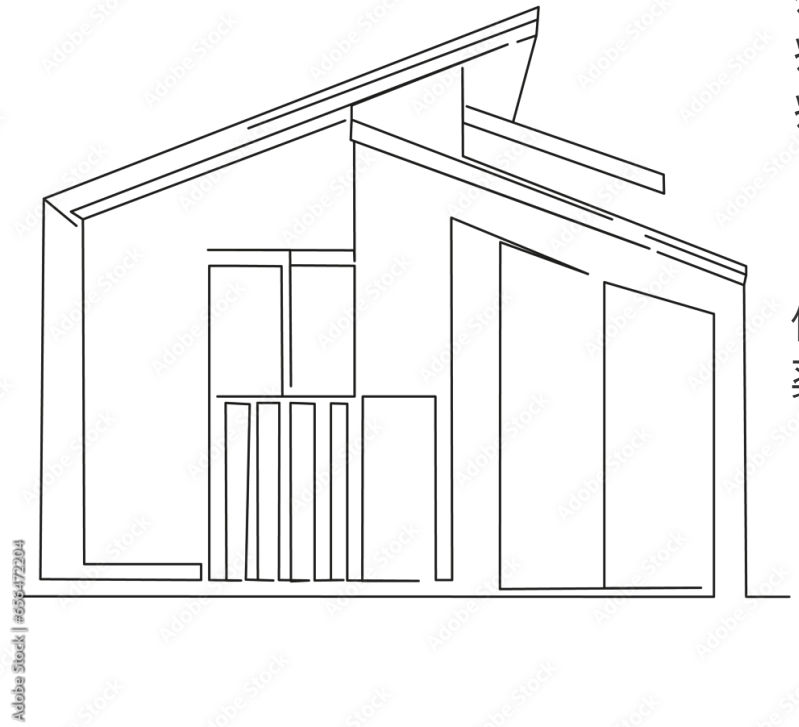
Acute/subacute/care/support

専門単科機能

専門医師を配置し、
高度な専門治療を担う機能に特化した
外来・病棟を持つ病院

循環器科
脳神経外科
眼科
人工透析
産婦人科などがある

病院・診療所と施設の併設



病院・診療所　＋　介護老人保健施設
病院・診療所　＋　グループホーム
病院・診療所　＋　訪問看護ステーション

何らかの施設を併設し
薬剤師が関与しているケースがある。

施設規模がコンパクトなら

01 職員同士の距離感が近い

相談しやすい関係性も構築されやすい。

名前で呼んでくれることは期待に応えたい！

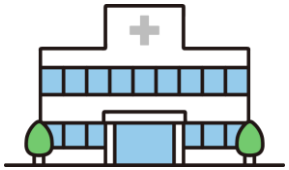
というマインドを刺激する。

他職種とクロストーク。

協力関係が構築されやすい。

施設規模がコンパクトなら

02 治療での最大のパートナー 医師とも近い



医師ともよく会う。「さっきはありがとう」と。

薬剤部門に直接来てくれる。

（薬の相談、雑談、ドリンクタイムは次の仕事のヒント）

逆に医局にも自ら足を運ぶ。

施設規模がコンパクトなら

03 皆で行う業務の協力感

中央調剤、病棟業務、DIという基本業務を総力で対応。
働き方改革もあり、定時退勤をする病院は増加。
プライベート時間を大切にする病院も。

施設規模がコンパクトなら

04 委員会活動も兼務やマルチに

医療安全、ICT、NST、褥瘡等、医療的な委員会活動も。
先輩のサポートのもと、兼務やマルチに行われる。
学習や発想も集学的となる。

施設規模がコンパクトなら

05 入院、外来、地域医療

医療は地域に広がり、自施設のみでは遂行不可能。

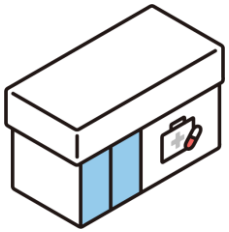
保険薬局、専門病院、介護・高齢者施設、在宅と様々。

薬物治療の切れ目ない情報提供・連携が重要。

逆に外来での薬歴情報の提供をうけることも重要

施設規模がコンパクトなら

06 保険薬局は重要な連携パートナー



地域外来医療を支える連携パートナーの保険薬局。
連携に積極的な中小病院が多くあります。
がん、生活習慣病、広域な感染対策、入院後の治療薬の追加、
減薬等、密な情報交換が患者利益に。

距離感の近さ ＝ 刺激の多さに繋がる

医師が近ければ対話、質問もされやすく非常に刺激的である。
それは学習意欲の向上に繋がる。
看護師が近ければ薬のことを聞かれ、頼られる。
患者症状について看護師より得られる情報も良い勉強になる。

回復期病棟（地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟）

中小病院では地域包括ケア病棟をもつことが多い。

診療科別一般病棟と違い、様々な疾患・薬剤を投与中の患者さんの転院がある。

幅広い薬剤の知識が生きる、頼られる。

「頼られる」は、やりがいに繋がる。

新しい活動が生まれやすい、実行しやすい

中小の医療機関では多くのユニークな取り組みを行っている。

日本病院薬剤師会ホームページに掲載

https://www.jshp.or.jp/activity/guideline.html

施設の規模がコンパクトであれば組織上の決定も動きが早い。

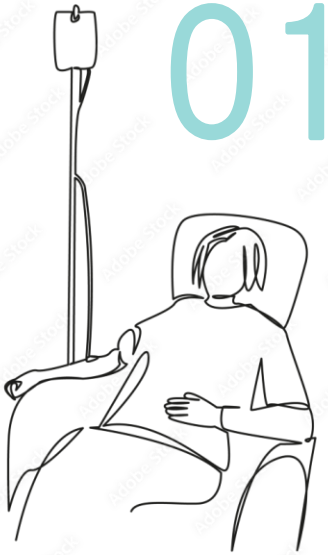
結果、取り組みやすい、テストしやすい。

いち科学者として、学術・研究活動の自由度も。

地域の中小病院ネットワーク

地域の（もしくは全国の）ネットワークにより状況・情報交換。
自院で適用できる取り組みか？他の発想のヒントにもなる。
ネットの時代。自ら、どこからでも（海外からも）情報を入手し
、施設内で適用を考えられる。

入院患者さんが近い
症状チェックに動線が近いのは重要



01

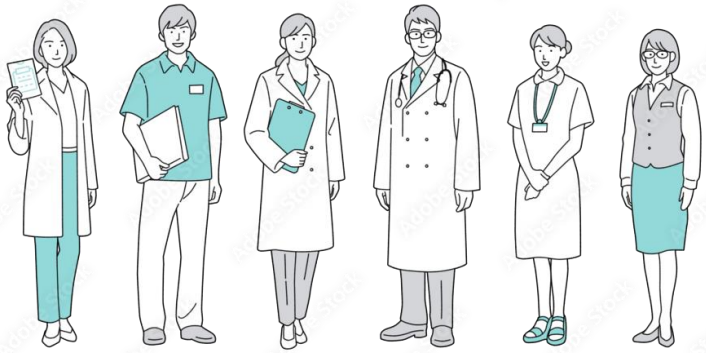
入院患者さんの症状変化は早い。
変化をつかむには直接赴く、常駐、看護師との情報交換が重要となる。
病院全体でどういったことが起きているか？この把握もコンパクトな施設では有利である。
保険診療の情報も得ることも可能。

症例トレースしている患者さんに対応、判断できるスキルが必要になる

認定、専門薬剤師の取得も可能

02

中小病院でも多くの薬剤師が認定や専門等の資格を取得。
各専門チームを設置し、薬剤師がチームを牽引する場合も。
診療報酬での後押しがある専門領域ではその活躍に病院も支援。
その取得を支援してくれる病院も。



- チーム紹介 -

薬剤部門スタッフ

○○純（入社24年目）

薬剤課長・ICT所属・医療安全所属
・抗菌化学療法認定

趣味は登山＆キャンプ。
世界のアウトドアを極めます。

○○大河（入社6年目）

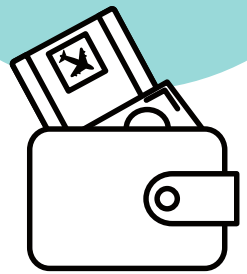
病棟・調剤・NST所属
・NST専門療法士

スポーツ好きならではの
スポーツ観戦ツアーを多く立案。

○○香澄（入社8年目）

病棟・調剤・クリニカルパス担当

ワイン、オペラ好きを生かした
旅行立案が得意。



○○みずほ（入社10年目）

主任・がん化学療法認定・
緩和ケア認定

ヨガの修行でインドまで赴く
本格派。

○○藍（入社3年目）

病棟・調剤室・ICT所属・
認定勉強中

趣味は登山＆キャンプ。
世界のアウトドアを
極めます。

○○龍平（入社1年目）

病棟・調剤室

島好きで最近のお気に入りは
マルタ島。

薬剤部門
1日のスケジュール例

８……８：３０　業務開始。今日の予定、情報交換会

９……９：００　それぞれ病棟へ出動！調剤も開始

１０　（この間　病棟で奮闘、退院対応、本日・明日の調剤、がん化学療法調製）

１１……１１：４５　昼のミーティング、各病棟・調剤室情報交換

１２……１２：００　ランチ

１３　（１時間休憩し、再び病棟で奮闘、本日・明日の調剤）

１４……１４：００　医療安全ミーティング（金曜日）、NSTラウンド（木曜日）

１５……１５：００　認知症ラウンド（木曜日）

１６……１６：００　ICTラウンド（木曜日）、在庫発注（アシスタント）

……１７：００　明日のタスク確認

１７……１７：３０　退勤

業務構成

05 医薬品情報

DIとして正確な情報を収集、各医療者に提供。副作用発生状況など。欠品・供給・代替提案情報も重要。

04

委員会活動・
チーム医療ラウンド

病院薬剤師は院内の各種委員会に必要とされ委員選出の多い部門の一つ。

ラウンドでは要となることも。

01 情報交換

患者さんの様々な情報（投薬、注射、検査値、臨床経過、退院予定、特殊調剤など）の共有。

02

調剤（内服・注射）

注射剤混合調製

アシスタントと協力し、欠品・供給情報も共有しつつ遂行。
がん化学療法、高額薬剤の調製。

03 病棟業務

オーダー監査、服薬指導、医師・看護師と薬物治療協議、オーダー修正代行を行うことも。

病院への就職について

【ホームページの確認】

薬剤師業務にアクティブな病院はホームページも充実しています。病院の方針や薬剤部門のページも確認してみましょう。

【求人時期】

病院薬剤師の求人は、運営主体（国、県、民間法人）により時期にずれがあります。当該病院に直接連絡を取っても良いでしょう。

【ふるさとの医療への貢献】

地方の病院含め病院薬剤師が不足しています。生まれ育った地域の医療に貢献するためにも、地方の出身の方はふるさとの病院の求人も是非ご覧になってください（地方の環境の良さは抜群です）。

入院～退院まで

感染

栄養

癌・緩和

注射剤

手術

多職種

病院薬剤師

総合力実践の場が病院薬剤師

本当のチーム医療がここにある

薬剤師になって良かった
その瞬間を感じてみませんか？

仕事の厳しさと喜びを

薬学部

あなたも
“病院薬剤師”を実現しませんか

病院。そこには誠実に臨床症例をトレースしながら、患者と伴走し、医師・看護師とともに治療を遂行する姿を具現化している臨床薬剤師がいます。新しいことにチャレンジし、ジェネラルに、時に専門的に活躍する・・・そんな薬剤師になりませんか